婦人衛生雜誌

大正七年一月二十日發行

第三百三十八號

明治二十一年十二月二十八日內務省許可（毎月一回廿日發行）

婦人衛生雜誌

第三百三十八號目次

謹告

來る二十一日（第三月曜日）午後一時よりお茶の水高等女學校作業館に於て本會新年會を開き左の講演並に講談等も有之候間會員諸姉の御出席を乞ふ。

○民族衛生の話　　醫學博士　永井潜君

餘興

講談　　細川風谷君

（尚ほ當日は總裁宮妃殿下にも御臨場あらせらるべきに付き此儀御含み置き被下度候）

大正七年一月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをして足れりとするにはあらず必ずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを冀ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして特に吾等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠らざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に一切研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か所思の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其賛成を仰ぐこととしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條 目的 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條 本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續[illegible]）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條 本會會員を分ちて終身特別及通常の三種とす終身會員は一時に金拾五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條 男子にして本會の旨趣を賛成する者又は本會に於て特に賛成員とする[illegible]本會に功勞ある者[illegible]●第七條 [illegible]●第八條 [illegible]●第九條 [illegible]●第十條 本會に左の役員を置く[illegible]評議員三十名、書記若干名●第十一條 會長副會長幹事評議員は滿年三[illegible]

月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は[illegible]記は役員の命を受け[illegible]●第十三條 [illegible]●第十四條 [illegible]●第十五條 [illegible]●第十六條 [illegible]會は毎年春秋二季に之を開き[illegible]毎月一回會員相互親睦の爲め[illegible]を開くことあるべし●第十七條 [illegible]經驗ある人々に衛生上の演説談話を囑託し[illegible]●第十八條 [illegible]●第十九條 [illegible]●第二十條 [illegible]●第二十一條 [illegible]●第二十二條 [illegible]●第二十三條 [illegible]●第二十四條 [illegible]●第二十五條 [illegible]支會長の承認を經て本會に報告すべし[illegible]地方に於て會員十名以上ある時は支會を設立することを得[illegible]●第二十六條 [illegible]●第二十七條 [illegible]●第二十八條 [illegible]●第二十九條 [illegible]●第三十條 [illegible]●第三十一條 [illegible]●第三十二條 [illegible]●第三十三條 [illegible]●第三十四條 [illegible]

東京市本郷區駒込林町二番地

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百三十八號
（大正七年一月二十日發行）

講演

亞米利加土產

醫學博士　岡田和一郎

私は前年官命を帶びまして亞米利加及び歐羅巴の視察の爲め旅行に出懸けました、然るに今度の戰亂が非常に大きくなりまして、大西洋の渡航が危險になつたので、今では必ずしも危險ではないけれども私が渡らうといふ時分には潜航艇の戰の最も烈しい時であつたので、大命を帶びて居る者が無法な旅行はいけないと思ひまして、歐羅巴の方は止めまして亞米利加だけ視察して歸りました、それで歸朝以來も各方面で自分の專門に研究した事、若くば醫學上視察した事等に就ては講演を致しました、此の婦人衛生會は永い間お親しみの有る會でありますから、何かお土產を差上げたいといふ考を持つて居りましたが、つひ病氣やら或は各方面の演說やらで多忙の爲め、今日まで延び〳〵になつて居りました次第でありますが、本月は是非出演しろといふ役員方の御依賴がありましたので、私も豫てさういふ考が有つた所でありますから、喜んで參つた次第であります。

併し私は此度の旅行に於ては主なる目的即ち醫學上の調査に甚だ多忙を極めましたが爲に亞米利加に參りましても婦人社會の情況といふ事の視察には割合に怠慢でありました、御承知の通り亞米利加は婦人の勢力の最も旺盛な處であります。何事も婦人の力を待たなければ用が足りないといふ位に非常に盛んな處であります。故に此方面の事を趣味を持つて

視察し、又それを調査致しましたならば、隨分お土産も豐富であらうと考へます。併し短時日の間に他に必要なる調査事項が澤山あつた爲に、割合に此の方は少く視て來たのであります。今日此處でお土産話をするにしましても極めて斷片的で不完全で纏つた話は出來ないのであります。併しながら多少なりとも見聞き致した事を斷片的にお話して、日本の婦人の衛生上に多少貢獻する事が出來たならば非常に仕合せと思ひまして、暫く御清聽を願ふ次第であります。

亞米利加の婦人の狀態と日本の婦人の狀態とを比べると、何方も社會上の位置としては極端と極端とに走つて居るのである。即ち亞米利加の婦人は世界中で一番勢力の盛んな者、又其位置も最も高い。男女同權と云ふても殆ど同權以上に婦人の位置が高い樣であることは萬國何れの國も認めて居るのであります。故に米國の婦人は家庭に在る時でも或は社交會に於ても何れの方面に於ても男子以上の高き位置を占めて居ると同時に之れに適應する如く精神的にも亦身體的にも充分に價値ある活動を爲しつゝあるといふ事は掩ふべからざる事である。其の位亞米利加の婦人は活潑であり表面上の人格も高尚であり又非常に活動して居る。從つて高い位置を占めて居るのである。所が日本の婦人は如何でしやうか、これは私は惡く言ふ。何れ後で結論の時に日本婦人の善い事を申しますが、日本の婦人は世界中で一番引込んで居る。失禮ながら男子の前へ出ると殆ど口も利けない。或は又惡く言ふと男子に悉皆、壓迫されて居る樣であるので總て何でも服從しなければならぬといふ位置に在る。故に社會上の位置に於ても或は家庭上の位置に於ても、婦人と男子とは全然やり方が違つて居る社會は殆ど男子の社會で、何事をするにも男子ばかり計畫し經營して行くといふ事で、婦人は皆家に引込んで居つて内助、即ち内で助ける、或は後顧の憂無からしむる、男子が働くのに内で助けてさうして後を顧る憂の無き樣に後から援けると

いふ位にしか見えない、去れば個人主義の米國流に傾きたる人をして評せしめたならば日本婦人は全く自己を放棄して居ると冷笑する程であります。斯ういふ工合に婦人の位置といふものは世界を通じて日本は極端に低い、亞米利加は極端に高いのである。

で此婦人の位置の高いと低いとが世の中の發展進歩或は政治に或は社會政策等に多大の關係があると思ふ。米國の婦人が非常に位置が高く活動的で活潑であるといふ事は、一面に於て即ち社會の裏面に於て之に伴ふ弊害も亦澤山あるけれども兎に角婦人の位置の高いといふ事は亞米利加合衆國の爲に誠に結構な事であります。此の婦人が非常に活動的であつて位置が高いといふ事は、近來著々として實際の上に現はれて來ました。丁度私が昨年の秋紐育に居る頃、大統領の選擧の時で、各州から議員を選擧する、下院上院の議員選擧、それから大統領の選擧があつた、そして此議員選擧に婦人社會の活動の盛なりしことは殆んど言語に盡せない程であつた、其結果、昨年に至つて初めて一婦人が下院議員に選出された即ちミッセス、ランキングといふ人が初めて選擧されたのである、さうして同嬢が議會に登つて開戰時代の議會に於て婦人としての相當の努力をしたといふ事を、私は實際華盛頓で見て來たのである。此位婦人の位置が高い男子と同じやうに議會の議員となる迄になつて居るのである。

又大學の如き最高學府に行て視ますると何所に行きても婦人學生の甚だ多いのに驚かざるを得なかつた、最も米國の大學組織が本邦の者と異つて其中に音樂科もある又美術科もあると云ふやうな譯で、婦人の志す學科の甚だ多いにも因るであらうと信じますが、兎に角多くの大學にて男學生の寄宿舍や俱樂部のあると同時に必ず之れに劣らざる女學生の寄宿舍や俱樂部が設けられてあつて殆んど數に於ても亦勢力に於ても兩者對等の位置にある樣に見えました、又米國は開戰當時までは、戰爭するにしても徵兵の制度が無い爲に皆兵隊を募集するのである、傭兵で

ある、故に兵隊を募るのにはどういふ方法を用ゐるかといふと、各州の政府が都市の繁華の處に大々的の廣告を出して兵隊を募集するのであるが、それにはそれ〴〵役人が有るけれども往々之を婦人に頼むのである、卽ち婦人は市中を色々に運動して、さうして兵になることを男子に向つて勸誘する、のみならず開戰以來といふものは亞米利加は殆ど皆な軍の事に熱中して、どうしても敵國を倒さなければならぬ、國民擧つて此共同の敵獨逸を倒さうといふ氣分になつて居る爲に各州の婦人が團結して兵隊を募ることを助け又た自ら一定方面の軍事に從はんと運動して居る特に或州の如きは兵服した婦人が數百人一團となりて或は太鼓喇叭の樂隊に連れて或は國旗を飜して市内を行軍して大に聲援を與へるのもあつた、去ば米國婦人は、敵國と戰ふには我々も男子と同じ様に戰ふといふやうな工合に運動して勵げまして居る、それから又唯さうして男子に聲援を與へるのみならず、婦人として出來る事は義務的にやらうといふので、卽ち從來は餘り振はなかつた赤十字事業も忽ち起つて忽ちにして有志的に看護婦の團體が出來、又醫師の團體も出來て、そしてそれ〴〵應分の仕事をするといふ工合になつたのである、それで米國婦人が如斯政治上でも學問上でも軍事上でも亦一般社會上でも男子に一步も敗けないといふ風に活動して居るのは、何れも皆な自發的でありて米國婦人の敎育があり其位置が高くて一種侵されざる氣風のある爲め容易に男子に玩弄されざるの結果であつて、これは誠に結構な事と思ひます、斯の如き狀態でありますからして隨つて婦人が世の中に立つて、さうして社會政策上の事や或は我醫事衞生上の事に盡す上に於て非常に勢力があることも亦事實であります。其事實として現はれた者は何ういふ方面にあるかといふと其種類は中々多くあります。今此等の事を斷片的に計へて見やうと思ひますが、先づ第一は社會政策の上に及ぼす婦人の影響であります。

社會政策の上に及ぼす婦人の影響を致しましては先づ、彼の米國に於ける「アルコール」問題を擧やうと思ひます、御承知の通り米國の或州の如きは隨分古い時からして頻りに禁酒を奬めて居る、所が中々酒を用ゐるといふ事は、これはもうずつと昔の野蠻時代から今に至るまで習慣的に殆ど國民性を成して居るので、此「アルコール」飲用を止めるといふ事は中々六ケしい。日本でも禁酒會、節酒會が出來、色色の方法を盡して社會に絕叫したものです、大學の片山博士、大澤博士なども此弊害を說いて居られるけれども中々是は六ケ敷い問題で、亞米利加に於ても餘程六ケ敷いといふ歷史を作つて來た、所が最近に至つて各州續々として此「アルコール」停止を實行して居る、米國各州を通じて殆ど四分の三以上は當に實行して居る、加州の如き沿岸州にて各種人種の雜居する處では尙ほ一層困難事でありますが斯の如き州にてもカリホルニア大學の在るバクレー市の如く局部的に禁酒を實行して居る所もあります、加之お隣の英領加奈陀を見て來た所が、此國にてもオンタリオ州キベツク州の內オンタリオ州の方は皆嚴重に禁酒をやつて居る、それ故に此西半球は其大部分に於て今や「アルコール」禁止といふ事が行はれて居るのであります、そこで是は「アルコール」の害が學問上認められた爲でなく其禁止實行の順序を良く調査致しまするど全く米國に於ける婦人の運動の結果に他ならぬのである。即ち婦人が「アルコール」を飲んではならぬ、之を飲むから種々の弊害を社會に及ぼすのである、改良しなければならぬといふことを、自覺して熱心に運動された結果であります、其勢の盛んなる結果、社會に於ても遂に其必要を認め又た議會も漸く此問題を決定せんとするのみならず將に近き將來に於て米國全州に於て禁酒の實行を見んとするに到つたのである、さうして加州桑港の如きは開港場でありまして南洋人も支那人も日本人も居る、各方面の人種が雜居して居るから斯の如き開港場で禁酒を實行する事は甚だ六ケ敷い事柄で

ある、故に兵隊を募るのにはどういふ方法を用ゐるかといふと、各州の政府が都市の繁華の處に大々的の廣告を出して兵隊を募集するのであるが、それにはそれ〴〵役人が有るけれども往々之を婦人に頼むのである、即ち婦人は市中を色々に運動して、さうして兵になることを男子に向つて勸誘する、のみならず開戰以來といふものは亞米利加は殆ど皆な軍の事に熱中して、どうしても敵國を倒さなければならぬ、國民擧つて此共同の敵獨逸を倒さうといふ氣分になつて居る爲に各州の婦人が團結して兵隊を募ることを助け又た自ら一定方面の軍事に從はんと運動して居る特に或州の如きは兵服した婦人が數百人一團となりて或は太鼓喇叭の樂隊に連れて或は國旗を飜して市内を行軍して大に聲援を與へるのもあつた、去ば米國婦人は、敵國と戰ふには我々も男子と同じ様に戰ふといふやうな工合に運動して勵げまして居る、それから又唯そうして男子に聲援を與へるのみならず、婦人として出來る事は義務的にやらうといふので、即ち從來は餘り振はなかつた赤十字業も忽ち起つて忽ちにして有志的に看護婦の團體が出來、又醫師の團體も出來て、そしてそれ〴〵應分の仕事をするといふ工合になつたのである、それで米國婦人が如斯政治上でも學問上でも軍事上でも亦一般社會上でも男子に一歩も敗けないといふ風に活動して居るのは、何れも皆な自發的でありて米國婦人の敎育があり其位置が高くて一種侵されざる氣風のある爲め容易に男子に玩弄されざるの結果であつて、これは誠に結構な事と思ひます、斯の如き狀態でありますからして隨つて婦人が世の中に立つて、さうして社會政策上の事や或は我醫事衛生上の事に盡す上に於て非常に勢力があることも亦事實であります。其事實として現はれた者は何ういふ方面にあるかといふと其種類は中々多くあります。今此等の事を斷片的に計へて見やうと思ひますが、先づ第一は社會政策の上に及ぼす婦人の影響であります。

あるが併し斯ういふ所にも尚は亞米利加氣質があるもので何れの「ホテル」でも何れの料理屋でも食堂は大きい、さうして天下の美を裝ふて居るが、しかし公然と食堂で酒を飲むといふ事は殆ど無い。殊に婦人の居る處で婦人の前で飲むといふ事は殆んど無い飲みたければ「ホテル」や料理屋の階下の一番粗末なさうして男ばかり集合する特設の室即ち「バー」に行きて上流社會の人若くば婦人社會の人に認められぬ様に、非常に重罪を犯すかのやうな考で飲むのだ、公然と「俺は酒飲みた酒飲むべし」と言ふやうな風の人間は一人も無い様である、恰も犯罪でもするかのやうにコソ〳〵床の下で飲むといふが彼等の常態であります、開港場すら既に然りですから極く平和な閑靜な上品な都市にては殆ど皆な酒を飲まぬ習慣が行はれるやうになつたのである。是は婦人の勢力が社會に好影響を及ぼしたる一例ならんと私は信じます。

それから尚ほ一つ又社會問題として米國に於ける最近の食物問題に就て申述べますが亞米利加は御承知の通り一番物價の高い國である、殊に開戰後高くなつたことは、前古未曾有である、馬鈴薯なども一個一錢位したものが五錢もする、紐育邊りでは玉葱一個が五錢十錢となつた、戰爭で歷史上實に例の無い物價の騰貴を來したのである、しかも野菜物が非常に高くて、さうして品物が大に不足したのである其時分に及んで即ち本年の二三月頃、亞米利加の婦人、殊に紐育邊りの婦人が、斯く野菜物が高くなつては臺所の維持が出來ない、子供の大勢有るやうな者は小供等に馬鈴薯をも與へることが出來ない、子供が育たない、是れではどうも社會の大問題であるといふやうなことを自覺して忽ちにして四萬五萬といふ多數の婦人が集つて「ストライキ」をした、さうして紐育の市役所を取圍んで、野菜物が斯んなに高いに何故之に向つて調節の策を講じないか、斯の如き狀態では一家破滅であるといふことを婦人の口から絶叫した、旗を立てゝ示威運動をしたり、又其高

い野菜物を積んだ車を毀したりした、決して眞似をせよと言ふではないがさうして再三市役所に婦人の勢力の有る所を示して、遂に大に男子の社會、役人の社會の同情を得て六ケ敷いながらも物價を調節せしめて其目的を遂したことを觀て參りました。米國婦人の意氣の盛なることは實に驚くべきであります。

それから又其他の社會政策上にも婦人の影響は、中々大なる者があります、亞米利加國民の財産は非常に不平均である即ち一方では數千萬數億萬の資産を有つて居る人が多いかと思ふと又一方には其の日其日を送るにも困難する勞働者が甚だ多い、それだから亞米利加には社會主義の人が多い、隨分困つた人間が澤山ある。故に資産の有る人は造次顛沛にも忘れずに社會政策に盡して居る片時も忘れずに慈善事業に盡力して居るのが習慣である、故に孤兒院も盛んであり又各方面の救濟的病院も甚だ多くある、又た貧民學校も大きな建物で立派な仕組でさうして能く運用されて居る、といふのは即ち此社會政策上の考から富裕の人が惜氣なく數百萬數千萬の金を投じて、貧民の教育貧民の救濟といふことを各方面から圖るからであります。さういふ慈善的社會政策の出金者としては、無論カーネギー、ロックフエラー等の如き富豪者が主であるが矢張富豪の夫人或は未亡人等が甚だ多い殊に慈善的に金を出し合つて互に協力して或る社會政策を完全にしやうといふのは多くは婦人である。それであるからして亞米利加婦人は自分の位置が高い、自分の力が男に敗けないといふやふに養成されて居つて、さうして自分の資産を持つて居るから此等の婦人の力といふものは今は著々として社會の上に實行されつゝあるのであります。

それから第二には醫學上の關係、婦人と醫學との關係はどういふ關係を持つて居るか、醫學の上に於ての婦人の勢力に就てお話しますと、先づ私の旅行して居る中に婦人の醫學に關する學者が有るか無いかといふことを調べましたがまだ歷史は新しいが獨

逸に敗けない位進歩しつゝある、數年の中に或は獨逸以上の學問國になるやも計られないといふ事は私が他の方面で始終話して居るが、併し到る處に婦人の醫學者を見るといふ事には今ま倘ほ到つて居りませぬ、米國西部の各醫科大學には澤山の女學生が勉强して居ります又た東部の方にても既に醫師になりたる女生の補修の目的にて醫科大學に於て聽講したり又は研究したりして居る者決して少くないのである、さうして私がスタンホールド醫科大學を參觀しましたときに其所の生理學教室に婦人の教授が居りまして色々談話を交換しましたが中々博學で能辯家で世辭に富んで居つて其の談話中に貴方の名前は夙に承知して居ります貴方は曾て耳の解剖の事を報告したでしやうと言はれて驚き入つた事もあります。兎に角にさういふ風な工合に既に大學の教授の位置を女が占めて居る處もあるのである、それから又其の他各大學の教室を觀ると殊に顯微鏡を扱ひ、或は病理標本を作り、　或は細菌學上の黴菌培養を爲したり或は血液血清等の檢査をしたりと云ふ樣な醫學の中でも主に技術的の方面に關しては往々婦人がやつて居るのを見ました、併し何れの教室へ行きましても婦人が技術的の事を扱つて居ない處は殆んどない位で、そして婦人のやられた仕事は綿密でさうして極く手際よく、標本なども誠に都合の好い物を提供すると云つて却て男教授より賞贊する位でありました、其他是は醫學上に直接の關係は無いけれども亞米利加の大學には教授が多い其教授といふ者には皆教場の傍に速記者或は「タイピスト」、即ち「タイプライター」を扱ふ所の者が居ります、總ての教授に一人若くば二人の「タイプライター」技手が雇はれて居ります、さうして此等の「タイピスト」は或は病牀日誌を整頓したり或は教授の學術上の論文を寫したり或は公私の通信を司たりして居ります、又各處に圖書館がある、圖書館は非常に整頓して居る、日本に於ては亞米利加にあるやうな圖書館は今ま倘ほ一つも無い。さういふ良い圖書館が到る處にありま

す。其の圖書館の役人なども皆婦人であつて、其婦人は皆、英佛獨語に通ずるは勿論、近頃は中には日本の雜誌まで讀み得る者もないではない、即ち日本の東京醫學會といふやうな名前も知つて居つて、斯ういふ雜誌があるなど〻話して居るのもありました、斯の如き米國婦人には英佛獨語の讀めるのみならず日本語も讀める位の婦人が澤山ありて、さうして斯の如く眞面目な有益な且つ高尙な位地を占めて間接に醫學の進歩を助けて行くのであるから此等も大に學ぶべき點であると信じます。

それから最後にもう一つ婦人の事業として發達して居る者として看護婦の事業を擧げやうと思ひます。米國には看護婦は非常に澤山に居ます、さうして彼等は餘程好い位置を占めて居ります即ち到る處の病院に看護婦が澤山居つてそれ〲滿足せる任務に就いて居りまする、大きな病院になると五百人千人の患者の居る處がある。紐育のベルビユー病院の如きは四千人以上の患者を收容し得る大病院であります、斯の如く大病院には常に數百人の看護婦が居りますが、夫には夫〲寄宿舍が與へられてありまして、さうして同時に看護婦の練習學校が設けられてあります、其學校でも日本の大學よりも立派な家で十階十五階といふやうな高い且つ立派な建築であつて其內に充分の設備を爲して居る、そして看護婦に必要の學術を敎へて居る、そこの主任の人は何れも皆年老いた婦人でありますが、其人等に會つて話を聽きますと、亞米利加に於ては看護婦といふ者は極めて善い職業とされて居る、位置が高くてさうして同時に慈善的で極めて愉快なる職業となつて居る、故に良家の女子等が澤山に來てさうして喜んで其職に就くとの事である、それで看護婦として就職した後のやり方を見ると、殆ど皆日本邊りの助手のやる位の事はして居る、治療もする、患者に對する處置もすると云ふ具合に病人に就ての知識が充分に敎育されて居る樣である、さうして看護婦としての彼等の位置は甚だ高い、病院の院長でも醫員でも日本で言

つたら博士學士といふ位置の人でも彼等に向つて男から頭を下げる、そこらを通行の時でも看護婦を先に通らすといふやうに極めて尊敬した態度を取るのである、又た彼等と談話するにも常に尊敬した言葉を用ゐることになつて居る、尊敬を拂はれゝばそれだけ位置も高くなり又責任も重くなる、尊敬といふ價値を付けて來るから矢張り自分の品行を愼しみ修養を積み職業を勵むといふやうになる、品行上の失敗がなくて職業を勵むから永久に其位置を保ち又其位置をして益々向上せらるゝことになるのである、されば米國に於ける若き婦人が看護婦に就職するは將來の結婚を妨げること決してなきのみならず、之を希望する婦人なれば却て良縁を索むるの好方便ともなり得るものである、然るに同じ看護婦でも日本の看護婦は如何です、其位置は殆んど下女同樣です若いお醫者さんでも誰それ樣とは言はずに常に呼びすてにするではないか、朝から晩まで働いて居ても常に人の下位に居つて使役さるゝのみである、尊敬されない位置も低いから自ら責任を感ずる念慮も薄くなつて終には品行上の失敗に陷る樣な者もないではない、されば今では大學赤十字社等の看護婦は一般に教育もあり品行も概して良い樣であるけれ共社會一般から見て今ま何ほ看護婦をしたと云ふ履歴は正當の結婚に向つて決して好影響を與へないのみならず、却て妨害を與へるが如き傾きあるは私の大に遺憾とする所であります．故に私は將來本邦に於ても少く米國風を加味して看護婦の位置を向上してさうして同時に自分の名譽と責任とを充分に自覺する樣に改良したいと思ひます。

それから第三に米國婦人の個人衞生の事を申上げます、前に述べました如く米國婦人は學問はするし、それから修養があり、位置が高い爲に隨つて其個人衞生も日本あたりと違つて餘程盛んに行れて居ります、唯今田澤博士の仰つしやられた如く米國婦人社會には運動といふことが非常に盛んに行れて居ります、其運動方法には色々種類があります、女

學校等では無論體操法を主と致しますが通常娛樂用としましては「テニス」をやるとか「ゴルフ」をやるとか、或は又水泳をも致します、しかも水泳は夏ばかりではない、冬もお湯で出來た水泳場が到る處に在るから、冬でも其處で水泳するのである、全體水泳といふことは非常に體の運動になる、全身を動かさなければ出來ないのであるから非常に良い運動である、故に夏は無論であるが冬でも溫浴と同時に皮膚の鍛錬になり、淸潔法にもなるので色々な方面から非常に利益な運動法と認められて居る、殊に日本は海國、卽ち周圍は海に圍まれて居つて、隣の國へ行くにも船に乘らなければならぬ、其の海國の人間が水泳を心得ないで、一朝事有る場合に土左衞門になるといふやうな事ではすまぬ、若い時分は練習して何事があつても困らぬやうにする事が日本國民として又必要な事である、此の爲に水浴するといふのが又衞生上一つの方法で誠に結構なことであります、是れは夏水泳をやるといふ事は無論でありますが、夏やつて冬やらぬでは矢張り修養にはならぬ、又體の訓練にはならぬ、冬季にもやりたいと思ふのであります、無論水泳ばかりではない、「テニス」、「ゴルフ」それから乘馬でも體操もあちらではさういふ事に婦人も交つて熱心に行つて居ります、本邦婦人もどうぞ閑さへあれば戸外に出でゝ衞生と娛樂の目的にて何か運動を爲さる樣に心懸けることを希望致します。

それから其次に育兒の關係、子供の育て方ですが之は私より皆さんの方が御承知でありませうが亞米利加の育て方と日本とは大分違つて居る、私が市俄古に行つた時、領事某氏が停車場まで來て居て下すつて、私等を迎へると同時に私を見ると「一日千秋の思で待つて居つた」と言ふた、一日千秋の思をしたのは私が來ることに愉快を感じた爲めにそんなに待ち兼ねて居たのかと思つた、所がさうではない私に相談の必要があつて待ち兼ねて居つたと云ふのであつた、それはどういふ譯かといふと數日前に桑港

へ著いた日本の婦人がある、子供を連れて來た、其子供が「ジフテリヤ」に罹つた、船の中で罹つたが、桑港へ上陸した頃は明かでなかつたが、汽車に乘つて市俄古まで來る汽車の中で「チフテリヤ」と分つて、それ故に汽車から直ちに市俄古市の傳染病院に入院さした、所が此の傳染病院は非常に嚴重であつて總ての部屋は皆、硝子張りにして、子供の這入つて居る部屋へ母親が來ても、硝子張りの外から顏を見る計で決して側へ寄ることが出來ない、それ故に子供が號泣しても唯だ離れた處から見て、あやしたりなどして、夫で歸つてしまふのであつて、無論菓子だの食物だのを與へる事は絕對に出來ない、即ち一室の中に同じ種類の病兒を二三人宛、入れて置くといふやり方で、看護婦も矢張り硝子障子の外の廊下を歩いて一定の時間に食物を與へ、一定の時間に醫者が診察して藥を與へるといふ風である。所が日本の其の「チフテリヤ」の子供が市俄古へ來て其病院へ入院した所が母親も血の涙で泣いて居る、乳を與へる譯にもいかず、食物を與へる事も出來ない、硝子張の中へ入れられぬ規則ですから仕方がない、所が病院の方では入院させた所が朝から晩まで泣き續け牛乳も飲まない、どうにも仕方がない、如何に良醫が居つても良い藥が有つても良い注射を施しても食物を取つてくれない病人は仕方がない、一日經ち二日經ち三日經つても泣き止まぬ、乳も飲まぬので、醫者や看護婦も大に困つた、加之ならず其子供の榮養が段々衰へて來たので遂に市俄古の市役所では日本人だけは特別待遇をして、母親を硝子張りの中へ入れることにした、破格的の規則を拵へて日本人の病兒は親と共に硝子障子の中へ入れることにした、斯の如く母親は「チフテリヤ」患者の中へ共に這入つてさうして乳を飲ませ、或は母が飯湯を造つてやるやうにしたので茲に於て初めて病兒の榮養を恢復し又病氣も終に全快するに到つたのである、私が行つた時はそれが「もう良からうと思ふがどうだらうか」と私に相談された、そこで私も行つて見ましたそし

て診察して良いといふことになつて外へ出しましたが、自分は親しくさういふ事を見聞きして、どうも日本の子供の扱ひ方が違ふやうに感じた。即ち日本人の子供の扱ひ方は愛に溺れる、子供といふものはそんなに年中抱きつきりにして年中附きつきりにしなくても宜しい、吾々でも三度飯を食ふ、そして働いたり又は喋り續けて居つても、決して瘦衰へて仕事が出來ないやうな事はない。子供も亦一定の時間に食物を與へれば、それで他の時間は相當の方法を以て樂しんで居る、故に傳染病院に行つて見ても何百人と居るけれども、皆寢臺の上で笑つたり喋つたりして滿足して居る。看護婦が來てもあやすでも何でもない、乳でも分配してやると喜んで飲む、飲めばスヤ〳〵眠るといふ風に一人で樂しんで居る、一定の時間に一定の法則に從つて食物を與へるのみで後は抱きつきりにしたり夜など添乳したりなどは決してない、初めは泣いてもそれが習慣になると終にはおとなしくなる者であるからそんなに始終側に居ゐでもよい者である、さういふことにしないと今はまだ宜いけれども世智辛くなつて女も男と同じやうに働かうといふ場合になつても母親といふ者は子供の爲に働く事が出來ない、又位置が向上して世の中に出て男と同じやうになつても子供の爲に働けぬことになる、極く太平無事の世の中なれば宜いけれども、唯今の歐羅巴のやうに世界の大戰爭があつて、これからまだどうなるか解らぬ、日本も其仲間に這入つて男だけの力では足らぬ、女も共に出て相當の國事に奔走しなければならぬといふことになつた時、私は子供が有るからいけない、それも病氣とでもいふなら仕方がないが健全な子供を持ちながら其爲に出られないやうでは實に仕方がないのです、子供はそんなにしなくても自然に育つ、却つて自然に育つ方が充分の發達を遂げるやうに思ふ。餘り可愛がり過ぎるとつけ上つて來る、餘計な物を食はしたり或は厚い著物を著せたり、眞逆裸でも置けまいが寒さを凌ぐだけの著物を著せさいすればよいのであ

る、今から覺悟して餘り愛に溺れぬやうにしなければならぬ、亞米利加邊りへ行つてもさう行り方が違はぬといふやうに是等の點にも注意せんければならぬと思ふ。

それから、個人衛生事項として亞米利加の臺所に就て申述べます、無論西洋の臺所と日本の臺所とは餘程違ふ。卽ち食物の拵へ方も日本と違ひます、日本は餘程廣々した處に竈なども大きく要しますが、彼方は極めて狹い處でさうして瓦斯を使つてやる、卽ち餘程簡單で其方法も違つて居る、又中等以下の人民は多くは外で賣つて居る物を買つて食べるといふ風で、家で煮炊きしないで出來上つた物を買つて食べる、であるから臺所は一般に甚だ簡單であります所が個人衛生の進歩して居る爲に色々の點に注意が拂はれて居ります、大きな都市の住居は槪して大きな家屋である貸家でも十階も十五階もの高い家であるさうして其一家屋は下から上迄悉く異りたる家族に貸して居る。此「アパートメント」借家には入浴用、雜使用及び燒室用の爲めに絕へずお湯が通つて居るさういふ工合であるから臺所で「ナイフ」や庖丁を洗ふにしても、或は肉匙を洗ふにしても皆熱湯で洗ふ事が出來る、日本のやうな冬でも冷たい水で一寸洗つて置く、下女委せで洗方を不充分にして置くやうな事はない、又私は支那に旅行した時、見ましたが支那では大きな鐵鍋のまるで日本の湯殿の風呂を焚くやうな大きな鍋で、豚や、饂飩や色々な物を煮て食べる處がある、そして其鍋を掃除するのに鐵鍋だから中々重くて容易に卸せないから、其儘に安置して其中に水を入れて箒で掃き出すのである、それがどういふ箒かといふと庭箒、さうして庭は甚だ不潔で、便所が無いのでそこら中便所だらけのやうな處を踏んで來た土足で踏む所である、其庭を掃いた箒で鐵鍋を掃除する、それで物を煮る、私も其饂飩を御馳走になつたが、其鍋を目擊して堪らないと思つたけれども空腹だから我慢して食べて來た、それでも矢張り豚は豚の味がする、さういふ風な工合の處

もある、日本は支那のお隣でも清潔好きで昔から潔癖の國と言はれて居るけれども、自分でやれば宜いが他人任せ下女任せにして沸くと、寒い時など冷たい水でやれと云ふと殆ど水を掛けたばかりで沸くこともも必ずあることゝ思ひます、此等も衛生上注意すべき點であらうと信じます。

それから洗濯の事、是も矢張非常に健康上必要のものであります、亞米利加邊りでは下著の洗濯といふ事は中々八釜しいやうで、却て上の方は中々物價が高いから洗濯する事は出來ぬけれども、下に著て居る襦袢は殆ど毎日のやうに洗ふ樣である、所が中等以上の人には之が容易に出來るが下等の人には出來ない、下等社會に傳染病でも起つて來れば上流社會も間接に影響を受ける、どうしても上流社會の人は自分の健康を完うしやうとするには矢張り下層人民までも充分に清潔にしなければならぬといふ考で市俄古市邊りでは共同洗濯所といふ物を設けてあつて、市俄古市長は私を案内してさうして大變御自慢で私に見せて呉れた。中々立派な洗濯所で、建築も立派であるが其中に數百人の婦人が洗濯が出來る樣にお湯と石鹼とを充分に備へてある、是は無論下層人民で自分の家にお湯も洗濯所も無いやうな者に、每日洗濯して清潔な著物を著るやうな習慣を養ふといふ爲に出來て居るのである。所が洗濯するのに子供が居て困る者がある、日本の婦人だと、ちきに半纏で背中に背負つてする事も出來るが、日本の婦人は其點は甚だ便利だが亞米利加の婦人にはそれは出來ぬ、皆手引車か或は「だつこ」して來る、だから洗濯が出來ぬ、それで洗濯所が有ると同時に一方には子供預り所といふ處が有つて、乳を飲ませてさうして洗濯を終るまで預つてくれる樣に仕組んである、そこで一般下層人民全體が比較的清潔なる著物を著る事が出來るのである、是れを市俄古市長が大變御自慢でありました、さういふやうな事で中々社會上の總ての方面に御婦人の衛生思想といふものは全體に應用され、さうして社會の公共的衛生及び個人的衛生

さいふことは向上しつゝあるのであります。

是れは即ちどういふことに歸着するかといふと亞米利加の婦人は非常に位置が高くさうして理想が高い、男子に敗けない、女は女だけの考を有して居る、而して社會に貢獻しやうといふ心がある。それで之を日本の婦人のやり方と比て見ますと、大體に於て日本の婦人と亞米利加の婦人とを比較して考へて見ると、日本婦人のやり方は決して悉く惡くないと思ひます、即ち日本の婦人は溫厚である、さうして優美である、さうして內輪である、しかも家政上の事即ち主人は戶外へ出て働き自分は內で助ける、家政を專らにするといふやうな所は、社會の上でも家庭の上でも男女の間の調和が能く取れて居るのである、それ故に男が働くにしても內顧の憂は無い、力を專らにするから充分に働くことが出來る、亞米利加ではそれが出來ない、內顧の憂が有る、即ち主人が外で仕事をすれば婦人は主人が不在になると三越のやうな處へ行つて買物をしたり、或は又踊場で踊つて居るといふやうな事をやつて居る、殊に弊害のあるのは、金を餘計に使つたり、又種々不都合の事が起つて來るのである、そこで米國の男子は大いに內顧の憂があるのである、米國では夫婦が外では仲がよいやうでも家へ歸ると非常に波瀾が多く、所謂日本あたりで夢にも見ることの出來ぬ大きな波瀾があるといふことを聞て居ります、私が知つて居る大學の教授でも奧樣が私を招待すると御亭主もお客さんで、場合に依つては奧樣に「今日は御馳走樣でした」とお禮を言ふ。總て他人のやうである、又御亭主が私を招いた時には奧樣がお客樣で、まるで他人行儀で、外で見ると內で見るとは全然違つたやり方をやつて居つた、そんな事を見ると日本は外では見えぬけれども家庭へ入ると實に琴瑟相和すといふ、とても亞米利加などでは見られぬ事である、兎に角日本の婦人は男と共に社會を構成して居るのに皆分業的で男は男らしい職業、女は女らしい職業をする、男は兵隊に行く、男は議會に於てやるから自分も軍隊

に入る議會にも出てやるといふやうな事では結局衝突で、しまひには遂に力の競爭となり、男が敗けるか女が敗けるかといふことになると虻蜂とらずになる。國家の上に於ても家庭の上に於ても役に立たぬことになる、だから全體に於ては日本は結構である、しかし今の婦人の位置からもう一歩出て、もう些つと御婦人方に御奮發を願つて、其位置を高くすると同時に其理想其著眼點をも高尚にして社會的政策の上にもう些と婦人の力を加へるやうになつたら、亞米利加と日本の丁度相半ばしたものが出來て國家の爲に大層良い婦人を得ることが出來やうと思ひます、亞米利加土産を斷片的に申上げましたが是れでおしまひに致します。

叢談

節儉食料及び救荒食物に就て

醫學博士　三宅秀

〔本篇は博士が昨年東京女子高等師範學校に於て講演せられたる所なるが、特に請ふて茲に掲載することゝせり〕

今日私が茲でお話し致します演題は節儉食料及び救荒食物に就いてゞあります。其節儉食物と云ふのは儉約した食べ物言ひ換へれば食物に大儉約を加へなければならないといふことであります。世界中如何なる國に於ても、目下食物の大節儉をしなければならないといふ問題が起つて居る、殊に歐洲で大

戰爭が始まり各國で食料が乏しくなつてからは、一入その呼聲が高くなつて來たのであります。蓋し此事は彼地に於ける交戰各國のみならず、我國にも北米合衆國にも必要と言はれて居ります。食物の儉約はひとり一家に於てのみならず、國全體にとつても必要であります。

元來經濟と衛生とは離るべからざることでありますから、唯衛生上の見地から何でもよい物を著たり食したり、よい家に住んだりするといふことは少しまちがひで、大に經濟方面からも考へなくてはなりません。そこで私が日本の有樣を見ますると幸に古人がなるべく粗食に馴れるといふことを教へて平常から出來るだけ儉約をして居りました。衣食住の中で最も奢り易いのは衣と食とでありますが、其儉約の大切なることは古人がよく教へたが、新しき衛生を研究する者が間違つた考へから、かゝる粗食では勞作に耐へられぬと折角古人が極力教へたことを水泡に歸せしめてしまひさうであります。

そこで今世界各國の唱へる節儉食物を日本でも廣く知つておく必要がある、何故ならば若し饑饉が來た時に不味物が食べられなくなるであらう、故に古來饑饉の時に如何樣な物が食せられるかと調べてあつた物を救荒食物と題して演題としたのであります。文部省で時局に對する教育資料なる印刷物が吾等の手に頒けられて居る、この中から關係ある節儉食料のことを拔き、又歐洲から新歸朝者の手より書物を借り集め交戰國殊に獨、墺、英の國々と之に接する中立國瑞西の書物、又は北米紐育市あたりの節儉食物を書いたものを借り集めて此所に陳列致した次第であります。卽ち之等の書物、又かねて新聞紙によりて報せられしものから國民全般にこの問題を知らしむる必要を感じ特に今日このお話しを致す所以であります。次に救荒食物の問題は本邦にて數百年前より言傳へて民間に自然流布しありたれども天保年間よりして一層其緊要なることを民間に教へられしが、歐洲にては時局の刺戟により急に獨逸スッ

ツクガルトでは「ノヂシヤ」、「ダケゼリ」、「スイバ」、「ソレモコウ」、「イハミツバ」、「アカザ」、「アメリカボーフー」、「レンリサウ」、「ホツパイラクサ」、「タンボボ」、「ハコベ」、「キクヂシヤ」、「マンテングサ」、「カラハナサウ」、「ツキミサウ」、「エソツルキンバイ」、「ヤマガラシ」等に等き野生植物を又伯林に於てはウインケル氏のつくりて公にせし圖解に於て「ニハトコ」、「ヤマイチゴ」、「スズイチゴ」、「オランダイチゴ」、「キイチゴ」、「ハシバミ」、「サンザシ」、「コケモヽ」、「キンレンクワ」、「タンポポ」等（講演者反譯名ノ當否ハ保證シ能ハズ）が食用に供せられるものとしてあげてあります。日本は古來この問題に關して書いた書物は澤山あります。而して野生植物の能毒を調べ穀物の代りになる樣なものゝ栽培を奬勵し饑饉の時に備へることは國君の務めとなつてあります。然るに今獨逸に於ては戰爭の結果急にこの問題について調査を始めました。それで今日わざわざ日本の古き書物及圖譜を集め獨逸の急作のものと比較する爲に持つて來たのであります。

先づ節儉食料についていかに食物の儉約をするか其前提として二三箇條云はなくてはならぬことがあります。卽ち西洋交戰國が窮狀を救ふに如何なる手段を取るかを前提とするのであります。

一、食物の品質に就いて云へば、品質には精粗、善惡が一番に立つのでこれ迄衞生學者が稱へる所は彼滋養價の多いものが食物として善く不消化物は殆んど食物として有害無用の如く云はれます。之は衞生學の研究の充分進まぬ時代に云つたことで衞生學には限らずすべて文明國人の云ふことであるから何でも正しいとして一概に外國人の說を信じた頃のことであります。兩三日前の某外國の通信文を普通新聞に譯出したのを見るに菠薐草は胃の腑の箒である、これを食すると胃中のものが掃き清められると書いてあつたが、日本人はこれよりも尚一層よい箒を每日の樣に食して居ります。卽ち常に穀類を食し種々なる野菜類を食しますが

我々とその習慣を異にする西洋人にはかゝる節の必要を事々しく述立てる必要があるのでありませうか、西洋でも今日では既に食物は乳か肉でなくてはならないとするのは誤であることを漸く悟つて來たのであります。

二、次は食物の純雜と云ふことであります。衞生の點より云へば必ず純粹の品が良いと言ひますが純なるものが必ずしも人身に適ふと云ふわけではありません。日常缺くべからざる飲料水の如きも化學者に云はせると眞に純なる水は得難く又眞の純水は人身には却つて害があつて多少の鹽分を含む方が適當であり入浴用としても多少の鹽分は含まれて居る方が湯ざめがしなくてよいとの事であります。又食鹽は鹽化「ナトリウム」であることは解りきつたことでありますが純鹽化「ナトリウム」でよいかと云ふに鹽分だけ取るには純なるもので差支ありませんが、漬物醬油の製造等を試みて寧ろ「マグ子シウム」、「カルシウム」の入つて居る方が宜しい、即ち食物に就ても同樣に絕對的純に過ぎるものは人身には不適當であります。

三、代用品と云へば高價の食物の代りに安價な食物を選ぶと云ふことであります、價の高下のみならず、或る食物の缺乏した時には止むを得ず他のもので代用しなくてはなりません。即ち鳥獸肉が高價になれば他の安價の肉類に代へるか、或は穀類に代へるかしなくてはなりません。すべて節儉の方から云へば、なるべく安價なるものを用ひなければならないのでありまして、世界各國研究しつつあるところであります。我國では目下云ひ出して居る精米の代りに玄米を用ふることは價安く升目が多いと云ふ、金錢上の問題のみでなく穀の表面に附いて居る糠は蛋白質及脂肪分に富む故、却つて玄米の方が良品となるのであります。まして高價の肉類の代りに穀類を以てすることが出來れば誠に結構なことでありますから各國ともに肉の代用に大豆を採る事の研究に大に努めて居る次第

であります。

四、分量、節儉食料に就ては成るべく容積の減じないものを用ひ度いのであります。例へば小麥を蝋いて麪粉を作るにも可成飛粉といふ樣なものは作らず、唯穀の上皮を除くに止め米ならば半搗位の狀態のものを粉に致します。然る時は升目が減らず、而もこの殘存の部分には却つて人體に有益なものが雜つて居るのであります。

食物は強ち滋養分の多きのみを欲するものではない多少胃に飽滿の感じを與へることが必要であるから、節儉食料を作るには其前支度に付いても可成分量の減らない樣に工夫するのが一つの要件であります。之に加ふるに其調理法が適當でなくてはなりません。之に就いて目下交戰國に於ては薪炭が高くなつて居りますから食物のみならず、燃料をも節約しなくてはなりません。薪炭の儉約は日本に於ては從來はあまり必要ではありませんやうに見えて居ります。日本の救荒食物では煮炙の方法に對しあまり心配してありませんが、肉類などを專らとする料理では柔軟にする爲久しく煮ることがあるから燃料が多く入用である、泰平の時には鳥獸肉でも野菜等と等しく殆んど人工で柔軟かくすることが出來ます。牛羊肉及鳥類(「シヤモ」、「ニハトリ」、「アヒル」)等も同樣であります。戰時又は饑饉の時に取る節儉食料では軟に作つた物を選む餘裕がないので煮炙の力にて軟かにしなければなりません。從つて薪炭に困るのでありますが之は平日から無用に調理に手の掛る食物を常食に宛てゝ居た惡習慣から來て困らせられて居るのであります。「笑ふべき我國の食物」などゝ題して獨逸では今非常に自國が食物の爲め慣習上より困らせられて居るに驚き且悔いて自らをあざ笑つて居る樣であります。

尚ほ外國では食物に香料として調味藥などを加へなくてはならないものゝ如くにして居ります。然も其調味藥香料の殆んど凡ては外邦よりの輸入品でありますから一度今回の如き大戰爭になると食物の調

味に困り果つるのであります。節儉食物としてはす一べて力めて之等の贅澤品を廢さなくてはなりません。日本でも多少食物に香や辛味を附けると云ふことは行はれますが例へば吸物の吸口刺身のつま山葵位なものであります。調味料としては近來味の素等と云ふものゝ發見もありますが一般に用ひられる所の醤油味噌等皆それ自身に鹹味以外に美味を備へて居りますから簡單に食物を調理する材料は充分揃つて居る。而かも夫々自給の途があつて外國から材料を輸入する必要はありません。之に反して洋食は饑饉戰亂の時に於て最も不都合であるといふので盛に自給の途を講じ樣としても失火に臨むで消火器を作るやうなもので最早國内では決して急の間に合はすことが出來ません。これ等のことは日本では古くから衣食共に自給の途が樹てゝありまして古い本（饑年要録）に依つて見ますと四木三草を養へと即ち桑、楮、茶、漆の四つの木は國寶であるから栽培に注意する樣又麻、綿、藍の三草を荒地にも廣く作る樣にと古人の教示したのは實に感服の至りであります。

今日の問題以外ではありますが獨逸に於ては今日衣服原料の綿に困つて居ります　折角綿花が輸入されますと之に硝酸を作用せしめて恐く爆藥（綿火藥）としてしまひますので綿布を織るには紙を細く切つて撚をかけ、之を織り込んで居ると云ふことであります。尚この外衣服の材料としては蕁麻の皮をむいて其纖維を織物とします。又柳樹の皮の裏から纖維を採つて綿花に代用すると云ふ程窮境にあるのであります。日本に於ても絹や木綿の織物の中に楮の如き物を交ぜて織り込むものがある樣でありますが前に述べた通り抄紙用の外にも楮の栽培には既に大に注意せられて居る次第であります。次に申添へたいことは一時切りに西洋をまねて毛織物の長所ばかりを稱揚して上著にも下著にも之を用ひ、木綿の長所を省みなかつたと云ふのは愚なことであります。日本に斯くの如く古くから自給の途の講じられたのは何の爲かと申せば全く戰爭等の爲に交通が斷たれた

時の用意であります。
本題に立ち返り食物の說明に就いて西洋と本邦との差違を述べますに參考として現時の狀勢を窺ふ爲め、之に關する書物を歐洲からとり寄せ、其窮して居る有樣から察しますと獨逸は至つて元來儉約な國でありまして都會では多少衣食共に英佛の華美をまねる者がありますが、田舍では多く肉を食べずに滿足して居りましたが世の進むに隨て次第に贅澤になつて多く肉食をするやうになつた、戰爭前よりかゝる狀態ではやがて食物の缺乏を招くだらうといふ人さへあります。

普通食用とする肉は牛馬羊豚其他鳥魚の肉類であります。米國では近頃迄あまり用ひなかつた、馬肉も食肉儉約の爲に人身に害がなければ經濟上賣買を許すことゝなりました、さて戰亂が久しく續いて食すべき牛馬羊豚が少くなりますと、次には他の家畜即ち、犬猫や家兎の肉を用ひ甚だしきは鼠を捕つて食用すると云ふ事さへあるとか現に白耳義では此の事があると云ふ事であります。そして玆にある書物に依りますと常時生理學や病理學の試驗に用ふる天竺鼠は他の動物より繁殖力が强いから食用として之を飼養する事を奬勵すると云ふことであります。

獨逸の笑柄になつて居ります、ことには家畜を飼ひますのに廢物で出來るものならば長く生かして置いてもよいが、人間と同じやうな食物を要するものは家畜を飼ふ前に人間が食べなくてはなりませんからと云ふので一時に九萬頭の豚を殺して其肉を貯へました處、其貯藏法が惡かつた爲に腐らして仕舞つたといふ千九百十四年の失敗事業があつたと云ふことであります。斯樣に苦しんだ結果今日獨逸では家畜を飼ふ適當な飼料を見出しました、此品は人間の食料にもなるといふことであります、それは至極蛋白質に富んだもので素の材料は獨逸に豐富な甜菜糖と無機鹽類なる「アムモニア」、「カルシウム」、「マグネシウム」、「ナトリウム」等で之に醱酵を作用せしめて蛋白質をつくり之で馬などを養ひますと全く穀類

の代りになる程によいやうであります。

日本に居る或る獨逸人に來た手紙に依ると彼地では動物園の獸を殺して食とする由を書いてあつたさうですが、それも結局飼養料の不經濟から來たことでありませう、大の蟲を生かす爲に小の蟲を殺すと云ふ原則に依るので敢へて肉食をしたい三昧ではありますまい、斯樣に食物に就ては餘程考へて居るらしく在國の外人には力めて良い物を食べさせて自國の人々は或は規則など設けて擧國一致して節儉、食物をとり其代りに戰地にある戰鬪員には良いものを送るやうにして居るさうです。

英國ではどうかと申しますと「エコノミー、オブ、フード」(食料の儉約)と名付ける書物を出して居ります。

又獨逸では大に肉の儉約すべきであることを國民一般に知らせる爲に書物を發行し又は切符などで一人あてに制限してあてがふやうにして居りますのを英國に於ても之を眞似たさうです。のみならず佛國露國、伊國などでも此の事を始めたさうです。米國ではさほどのこともありませんが、やはり肉の制限をするために「ビーフステーキ」のやうな肉の大片をむざ／＼食べるは不經濟であると云つて可成細かく切つたものを食べさせて居るとのことであります。畢竟細截した方が肉の中の滋養分が能く出て少量で濟む譯である、魚肉に就ても此の通りであります。

次に脂肪類に就いてお話し致します。脂肪類は西洋人にとつては缺くべからざる食料の部分でこれの儉約とては殆んど出來ないのであります。しかし今の事情では儉約しなければならなくなりました。それで獨逸では脂肪儉約の政策は平素から考へて居たものと見え、「アンヅ」、「ハタンキヤウ」の類の果物を食べた後はその核を貯へて置く樣にと戰爭前から云つて居ります。これは脂肪の不足を告げた時、これから油を搾ると云ふ考へであります。數日前の新聞に見えたが平素斯くして貯へた核から百五十萬石の油がとれたと云ふことがありました。兎に角困つて

居る事は甚しくしてこればかりでなく草木の實から採つた橄欖油等が缺乏したので魚油の臭味を拔いてこれの代りとして用ふると云ふ事であります。又鑵詰の中の身を食した後は油を捨てずに置き揚物をする時にそれを用ひよと云ふ樣な事迄云つて居ります。英國の本に油の儉約として料理店で出す掛け汁は肉につけて食べるものでありますが、肉の上にかけると皿について仕舞ふ事が多いから可成掛汁を用ひない樣な料理にするか或は極めて少量を用ふる樣にせよと云つて居ります。成程掛汁として皿が汚れるとそれを無用に洗ひ流すことが勿體ないことで又それは石鹸をつけて洗はねばなりません。石鹸は又脂肪の製品でありますから二重に脂肪を損しなければならないのであります。實際英國ではそこまで脂肪の儉約をしなければならないのでありましてその苦みの程度が思ひやられます。

獨逸では向日葵の種子を採つて油を榨ります、これは露國で常に行つた事であつて窮した時にはこれから油を採ります。

實に油を貯んで、これなしには生活が出來ないといふ樣な習慣になつて居ります。所か日本には斯樣な事はありません。米國の生理學者が日本の食物はもう一歩で殆ど理想に適ふものとなる。それは唯脂肪が少し足らない樣だと云つて居ります。併しこれは米國の土地で云つた事で其人が日本に來て研究して見たらこれで充分と云ふかも知れません。氣候の故もありませうが日本人の食物には油脂類はあまりいりません。

若し一切の肉類や穀類の食物が不足すると體の温量を出すには野菜ばかりでは足りませんで油が必要となります。洋食の「サラド」には必ず酢と油とを添へて食べる習慣になつて居ります。日本でも嚴重の精進を守る僧侶は麪粉、麩觔等調理に多く油を用ひて居ります。肉を斷つた時は油は必要なものであるけれども日本人の常食には油がなくてもよいと云ふ事になつて居ります。尚獨逸は自國では多く油が出

來ないで佛國や伊國から來る橄欖油を用ひて居ります。日本では榧、椿等木實油も澤山に出來ます。

生理學者衞生學者の言ふ所によりますと植物性の脂油は消化惡しく動物性脂肪は消化が良いと云ひます。今日はかゝる贅澤は云つて居られません。溶解點が高くて冷えると早く凝固する植物性脂油は消化吸收が惡いなどゝ言つて居ることは出來ない樣になりどんな脂油でもないよりは增しと云ふ樣になつて來たのであります。

常食の穀類といふことに就ては麵麭を話す前に昨今評判のよい大豆のことを申しませう、肉が拂底になつたのでそれの代りに大豆を用ひるといふ事に漸く氣が附いたのであります。私は明治三十一年以來前後六回家事衞生の講習を致した頃これに就て話した事がありましたが最初の講習の時に今は西洋人はこれに氣がつかないで居るが屹度今に注意する樣になるだらうと話しましたが（實際其頃より密かに日本の大豆を彼の地に移植栽培したが成功せなんだ）漸く今頃になつて大に問題を起して居ります。大豆は脂肪と蛋白質とに富むで同時に澱粉を含むで居るから肉に優る程の立派な食品だといふので肉の代りにこれを用ひ又麥粉が缺乏してからは玉蜀黍が用ひられたけれども日本の米が知れてから麵麭の中にも米を混ぜる樣になりました。日本の大豆を治く食料とする樣になれば世界の食物の上に一大改革を起す樣になるであらう。近頃滿洲地方の大豆は日本、獨逸、英國、露國、米國等へ盛に出て行きます。それは人が食べるのではなくて油を採るのでその油は工業用として重要なもので其粕は肥料に使ひ又家畜の飼料とするのであります。最も少量は「ビスケット」を作るに用ひ又咖啡の代りにするのであるが人の食する部分は僅かであります。大豆を歐米に送るためには特別な運送船舶が出來て居りまして豆を袋や俵に入れないでそのまゝ雜亂で船の隅々まで積載するのであります。そして此船舶の着く所はきまつた波止場でそこに大豆船がつくと眞空器械に依つて極め

て巧妙なる仕掛(吸收喞筒)で陸上の運送車に上げられて、これに機關車を連結して諸方に送られます。斯様なものが今迄は食料にならないで居たのでありますが、大豆が大變に滋養分のある事が知れたのでこの後は食料となることでありませう。今米國に行く大豆は專ら日本の移住民が味噌や、豆腐を作る材料に用ひて居るといふことであります。それが値段にして一回に百萬圓にも上るといふ事でありますが西洋人が豆腐を食べるに至り進んでは醬油、味噌の味を覺えたらば實に愉快な事と思ひます。西洋人の常食である小麥の粉若くは「ライ」麥で燒いた麵麭は其製造上揑粉中に炭酸瓦斯を入れて膨らましたものであり、又穀物を一度粉にしたものであるから消化し易く倘中が窠になつて居るから消化液が能く滲み込み極めて消化し易いといひ日本人の食物はさうでないと外國心醉者は云ひますが今日では歐羅巴で食物に苦しむ様になり、獨逸では率先して麵麭の中に少くも一割は生の馬鈴薯を入れる事になつて贅澤な

白色の麵麭は見かけない様になりました。中には二割、三割、四割も入れて居り、獨帝の食も三割位馬鈴薯が入つて居ります。其他の部分は純粹の麥粉ではなくて「ライ」麥が五割五分白色の小麥粉が三割五分それに一割の馬鈴薯を入れると云ふ様な事であります。其一割の馬鈴薯は粉にして入れるのでありますが生の者をすり潰して入れたり又乾燥させて其まま碾て粉にして入れる事もあり又之から採つた澱粉を入れる事もあります。併し多く馬鈴薯を混ぜて燒いた麵麭は其中に大切な窠が出來ません。伊國では日本で大麥を食する時の様に大麥を湯の中に漬けて置いて柔くなつてから麵麭揑粉の中に入れて搗き混ぜて燒く事を工夫しました。又麵麭の中に米の粉を入れてもよく通常は家畜殊に牛馬の飼料とされた燕麥や玉蜀黍も混ぜ物として用ひられます。こんな麵麭も獨逸では千九百十五年には一週間に一人前千九百五十瓦にきめてあつたが最近の新聞では其中の三分の一を減じられたと報じてありました。極品質を

悪くして尚其上に分量をも減じなければならなくなつたのであります。以上がまづ穀物の食用状態の大要であります。

次に蔬菜果實の類に就いて申上げます。この類は果實から申しますと生の時食するといふ事は贅澤な事であつてもなくてもよいもので有りますが西洋人は大抵食後にこれを攝らねばならぬものとして居りますのは其食物があまりに濃厚なものであるからであります。日本人の如く淡白なものを嗜好する國民にはその必要はないのであります。果實を貯へるには「ジャム」の如きものとして置くといふのは何故かと云ひますとそれは牛酪代りに用ゐる脂肪の缺乏の時に麵麭につける牛酪を儉約するが爲めであります。其他の野菜では馬鈴薯を除くの外は歐羅巴では其用途が誠に少くてそれを食する時は牛酪や乾酪の如きもので味をつけて食べます、つまり肉を儉約する爲に肉の量に野菜を入れて食す位のものであります、百姓が園藝術を施して作つたものは、高くて迚も普通には食べられません、故に此場合には野生の蔬菜を以てそれに代へるのでありますが平常油だの其他の調味藥だのを入れ混ぜて食べつけた西洋人にはむづかしい事であります。日本人は穀類や野菜を食するに馴れた胃を持つて居ります、菜穀にも榮養の取れる、例ば牛馬の如きはどうして芻秣に依てあの巨大なる體軀を養つて行けるかといふにそれは自ら胃腸の構造及機能が是に耐へる様に出來て居るのであります、西洋人が多く野菜を食べると胃腸を損ふのに日本人は苦まないで居られるのであります、蔬菜類の事について報知新聞を見ると獨逸では野生植物の莖葉を食に充てる事を公衆に示して居りますが未だ根に及ぼさない處を見ると凶作の年の程に困つては居ないのだらうとありましたが日本人ならば平日根を掘つて食べる事を教へてありますから誰れでもそれを知つて居ます、併し西洋人はさういふ事を未だ知らないのであらうし、假令これを知つて居つても味をつけるものがなければ、喰ひ馴れぬ品は

食することは出來ません、兎に角日本の饑饉の場合に於ける樣に常々から研究が出來て居りませんからであります、かゝる食物を補ふ爲に學校の庭園でも運動場でも皆馬鈴薯を作らすといふ話でありますが是迄花なり果物なり作つて居た田園には多少收穫もありませうけれど新に荒蕪地を切拓くとその耕作に大變な勞力がいりますがそれも戰時の事で充分に力を注ぐ事は出來ず、加之肥料を施す事もむづかしいといふこんな所で野菜をつくつて食べやうと云ふ事は到底出來ない話であります、日本で昔から戰の時に籠城しても兵糧の貯へを何故充分にするかといふに百姓まで夫役にとられて戰の內は耕作につくものが居なくなりそれ故に數年續いて戰爭をする時には百姓まで兵士となり耕耘に從事せぬから收穫が少くなります、斯く戰爭の爲に作物の出來ないのは人工の饑饉だといふ說があります、これは面白い適當の對語だと思ひます、天候不良による天候饑饉も仕方がありませんが人はこの兩方の饑饉のために平日からこの備へをして置く事が必要であります。

西洋で苦しんで居るものゝもう一つは飮料であります、我國では茶を用ひますが西洋では茶でも咖啡でも乃至「コ、ア」でも凡て東洋や南洋から輸入せるものでそれを日々の飮料にするもので自給の途はないのであります、英國は自分の植民地で茶や咖啡が出來るから平時は安心して居てよいけれども今日ではその途も杜絕しさうで危險となりました、又米國の本を見ると咖啡は全く何の役にたゝず唯胃や腸の中の食物を流下さする流し水であると云ひ、日本の茶も同樣であると云つてあります、これは日本も餘程の打擊を見る事であります、「コ、ア」丈けはよいものであると云つてありますが、これは西印度がもとで即ち米國は自給の途を見つけて斯樣なことをいふのでありませう、英國は平和の時はよいが戰時には自給の途は一つもありません、獨逸では潜航艇で以て英國を干乾にすると云ふて居るが英國では又獨逸の兵糧攻に對する覺悟などゝいふ書物が澤山あり

ます。

最後に日本の救荒食物はどんなものかといふに日本では人工饑饉卽ち兵亂の時に當りて籠城して食物に苦しまない事を考へて居ります、その品物は今日一々枚擧するには及ばないが貯藏の出來る品物で乾鮑、干鯣、鱈、鮭の類調味品としては鹽、砂糖、鰹節等があります、すべて穀物、野菜の乾物、椎茸、切干大根、乾瓢、紫蕨の類は永く貯へられます、荒布、鹿角菜も兵粮となります、これ等の海草の如きものが大變都合よい事は海からとれたもので不純粹ではありませうが、自然に鹽分を含んで居る事であります、饑饉年には鹽でさへも得難いと云つて居ります、日本風の製鹽には兎角晴天の續く事が必要でありますのに饑饉年はその天候の惡い爲に原因する事が多いのでありますから勿論製鹽が出來ぬのは當然であります、鹽は獨逸は岩鹽といふ都合のよいものがありますが、日本では食鹽にも饑饉が來るのでありますから籠城には必ず鹽を貯へる又鹽を特別に貯へないでも海草を貯へると兩得の便利があります、日本の鹽物類で鮭の鹽引きなどあります、粗造な貯藏法ではありますが粗食に慣れた人には澤山に鹽氣を含んで居りますから頗る美味にて直ちに食し得るの利があります

穀類は久しく貯藏に耐へますが生野菜は貯へることは困難であります、紫蕨、干菜、干芋、莖杯は乾せば數年間も貯へ得ると云ふ事であります、饑饉年はこれ等で菜雜炊を作つて食ふ事が出來ます、饑饉年には米ばかりでなく豆も共に出來ませんから味噌や醬油は共につくりにくゝなります、これが出來ない時には糠味噌を作ることゝして居ります、私共は糠味噌漬と云つて大根や茄子抔を漬けて食べますが眞の糠味噌は味噌が出來ない時に少量の豆を使つて主に米糠を入れてつくつた者であります、又糠味噌を製する場合には米糠を充分に熬り煮た豆を其中に入れるのである、然るに其豆の煮汁をも捨てるなと書いてあります、此煮汁で鹽を煮立てゝ米糠と混せ

て作りますけれど平常の味噌のやうな滋養分をもたせるには何れも大豆が入用です、中には大麥や豆の代りに醬油粕、酒粕抔を入れたものがあります、此様なものを入れゝば味噌に代る位なものが出來ますが饑饉の際にはそんな贅澤は云へません、何故糠味噌を饑饉年に用ふるかと云ふに食物中蛋白質の不足の結果青膨が出來るのを防ぐ爲のものでありませう、今日より回顧すれば穀類の上皮の蛋白質や脂肪分に富めるものを取つて用ひたいといふのは實に稱すべきであります、米の磨汁所謂白水は捨てずに取つてこれを用ふべしといふ事がありますが米の磨汁は糠ばかりでなく沈澱せしむれば粉米の澱粉が多くありまして井戸流しに唯捨てるといふ事は勿體ない事であります、これを捨てずに貧民に施す位迄にせよとあります、これ等は凡て糠の中の養分を取り用ひしめやうといふ親切なので徹頭徹尾今日の衞生生理の學理に合致して居ります、實驗によりたる古人の敎へた凶年の食物藁餅、松皮餅等凡て今日の學理にあつて居ります。

救荒食物について極ざつと掻摘まんで以上の事をお話して止めやうと思ひますが、一言何故に殊更に本校でかういふ御話しをするといふ根本の理由について申上げたいと存じます、戰爭の時や若くは饑饉の時の救荒食物については中等初等の學校で有用植物として敎へる事が極めて必要でありまして圖書館にも救荒植物書を備へ博物館にもその標本を陳列して公衆にも注意せしめるといふ事は現時に於て特に其必要を見るのであります、郊外散歩實物示敎の時には食物窮乏困難した時に食べられるものに就いて敎へる事に注意して貰ひたい、敎育者となるものは植物學の敎師ばかりでなく、誰も心得置くべき事でありまして摘草の傍食用となる野生の草木を指導する事は誠によい事と思ひます、この意味に於て先づ第一手始めにこの學校で御話し度いと思つた次第であります、又この時節は潮干狩の好適時であるけれども野外に出て有用植物の採集等を御奬め致し

ます。

因に云ふ本年八月頃の英字新聞に依ると此大戰爭が平和に復すると否とに拘らず全國の中小學に於て野生植物の食用となるべきものを圖畫標本若くは幻燈畫にて教示し冬季は止むを得ざるし來年二三月頃よりは郊外へ出て直ちに採收し且調理器具をも攜へ行きて生徒に試食を奬むることゝなれる由を記載せり余の希望が實施さるゝを見て欣喜に堪へず以て所感を附記す。

大正六年九月初旬　三宅秀

疾病治療の話

醫學士　篠原昌治

凡て疾病に罹つた時にそれが極めて輕症のものなれば何等の治療を施すことなくして自然に治癒するものでありますけれど、少し重症のものなれば之に向つて一定の治療法を行ふ必要があります。又例へば其病氣が何等の治療を行はないでも自然に治癒すべき性質のものでありましても、之に適當な治療を加へますれば患者の苦痛を和らげ且少くとも何等の治療をも加へざるものに比して輕く經過し且迅速に治癒せしむることが出來るものであります。夫故疾病に罹つた時には之に向つて一定の治療法を行ふと云ふことは極めて大切なことであります。而して疾病の治療は多くは醫師の手によつて行はるゝものでありますけれど、此際患者は種々なる迷ひを生じ易きものでありますから、今爰に疾病の治療とは如何なるものであるかと云ふことに就てその大體の御話を申上げたいと思ひます。

疾病の治療法は種類が極めて多數でありますけれど、大體に於て之を原因的療法、症候的療法及び食餌衛生的療法の三種類に區別することが出來ます。

第一原因的療法とは疾病の原因を探究してこれを驅除し、以て疾病の治癒を期するものでありまして最も理想的の治療法でありますけれども、實際に於ては此治療法は未だ廣く應用せられて居りません。それは第一に多くの疾病の中で其原因が判明して居

るものは極めて少數であるからであります。諸種の傳染病には多數の場合に於て其疾病を惹起すべき病原體が發見せられて居りまして、從て其疾病の眞正の原因が確定せられて居りますけれど、其他の疾病に於きましては其原因の分明せるものは極めて少數であります。例へば今爰に風邪に基因して急性肺炎に罹つたとしますれば、其際は風邪が其病氣の原因の樣に思はれますけれど、又一方より考ふれば、風邪に罹るものは極めて多數でありますけれど、それが爲に急性肺炎を發するものは甚だ少數でありますから、其際肺炎に罹ると云ふことは風邪以外に其人は平素から體質が虛弱であつたとか、又は其他何等かの原因がなければならぬものでありまして、從て風邪のみが急性肺炎の眞正の原因と云ふことは出來ません。又或人が濕冷の場處に於て作業に從事し、其爲に腎臟炎に罹つたと云ふ樣な場合でも同樣でありまして、同じ場處に於て多數の人が同じ作業に從事しながら、其中の唯一二の人が腎臟炎に罹つたとしますれば其病氣の原因は單に濕冷の場處で作業したと云ふだけでなく、其他に何等かの原因がなければなりません。斯くの如くにして傳染病以外の疾病であますれば、其眞正の原因を知ると云ふことが頗る困難でありまして、これが原因的療法の行ひ難き理由の一つであります。第二には、たとへ疾病の眞正の原因が判明しましても、それによつて直ちに其疾病を治癒せしむる方法を案出することが出來るかと云ふに、決してさうではありません。何となれば、傳染病の如きものは其原因たる病原體は明かに分つてをりまして、それが體外に於きましては一定の藥物の應用、又は其他の方法によつて明に之を撲滅することが出來ると致しましても、其方法を直ちに人體內の病原體に應用することは出來ません。此等の病原體が人體に侵入しますれば、外部より手の屆かぬ深部に潛在して居りますから、之を撲滅する爲には藥物を病原體に直接作用せしむることが出來るものではなく、極めて迂遠な方法ではありますけれど、

之を患者に内服せしむるか、又は注射すること等によつて、患者の血液を通じて間接に病原體に作用せしむる外はありません。然るに病原體を撲滅するに足るべき藥物は又人體にも有害でありますから、之を體內に居る病原體を撲滅するに足るだけの大量を使用しますれば人體にも亦有害作用を呈し、生命を危くするものでありますし、若し又人體に有害作用のないだけの少量を使用しますれば體內の病原體を撲滅することが出來ません。夫故斯る藥物の使用によつては到底其疾病を治癒せしむることは望み難きことであります。これ又原因的療法の行ひ難き理由の一つであります。此等の事實が凡ての疾病に向つて原因的療法が最理想的であるにも係らず未だ一般に應用することの出來ぬ所以であります。而して此療法に就て模範的とも申すべきものは實扶的里に對する實扶的里血清療法でありまして、これは實扶的里の原因たる實扶的里菌が發見せられ、それより更に實扶的里血清が製出せられまして、其血清が本病の治療上卓效を奏するものでありますから、原因的療法として申分のないものであります。其他麻刺利亞に規尼涅を用ゐ、黴毒に水銀劑、沃度劑を用ふれば著效を奏するものでありまして、此等は其原因と治療法とが同時に判明して居るものでありますけれど、實扶的里の場合とは多少其意義を異にし、此等はその原因が判明して、それによつて治療法が出來たものではなく、先づ其治療法は多年の經驗によつて知り得たものでありまして、其原因たる病原體は其後の研究によつて判明したものであります。然るに近來此原因的療法は盛に研究せられて居りまして諸種の血清療法、「ワクシン」療法、化學的療法などは悉く此原因的療法であります。此等の内には黴毒に對する「サルバルサン」や其他多少成功し又は成功しつゝあるものもありますけれど、多數のものは未成品でありまして、中には何等の效力なきのみならす。却て人體に有害作用を呈し、此等の使用により患者は何等得る處なく、貴重なる人命を「モルモッ

ト」や家兎と同樣に一種の研究材料に使用せらるゝが如き場合もなきとも限りませんから、大に注意を要することであります。

第二症候的療法とは、疾病の症狀に對して治療を行ふことでありまして、例へば患者が發熱せる際には頭部を冷却して下熱劑を與へ、又咳嗽頻發すれば室內の空氣を乾燥せしめず其濕度を適當にし且これに鎮咳劑を與へ、又疼痛があれば痲醉劑を與へて之を鎮靜すると云ふ樣なことであります。此方法は現今行はれつゝある治療法の大部分を占有するものでありまして、且疾病の治療上最大切なるものであります。何となれば、疾病の中には全く不治の者もありますけれど、其以外の大多數のものに於きましても、其原因を探究し之を除去せねば治癒することが出來ぬと云ふものではなく、凡て生體は頗る巧妙に出來て居るものでありまして、假令病氣に罹りましても、多くの場合に於ては何等特別の治療を加ふることなくして自然に治癒するものでありますけれど、其中に於て特に疾病が重症であつたり、又は患者の身體が虛弱であると云ふ樣な場合には、其病勢が衰ふるまで之に堪ゆることが出來ないで、遂に其人は貴重の生命を失ふに立至るものであります。例へば茲に肺炎に罹つた人があると致しますれば、此際肺炎菌が患者の肺臟に侵入して炎症を生じ、其爲に高熱を發し咳嗽、喀痰、胸痛、呼吸困難等を來すものでありますけれど、元來肺炎菌による疾病は長く持續すべきものでなく、普通七日乃至九日間位で病勢衰へ體溫は甚しき發汗と共に急に下降して常溫以下となり、それと同時に疾病は治癒するものであります。然るに其際若しも患者の心臟の力が弱かつたならば其人は病勢が衰ふるまで之に堪ふることが出來ないで、遂に心臟衰弱に陷り死亡するものであります。然るに此際頭部を冷却して體溫を幾分なりとも下降せしめ、胸部に冷濕罨法を行ひて呼吸困難を和らげ、強心劑を用ひて心力を維持することによつて、よく其期間體力を保持することが出來れば、時に肺炎菌

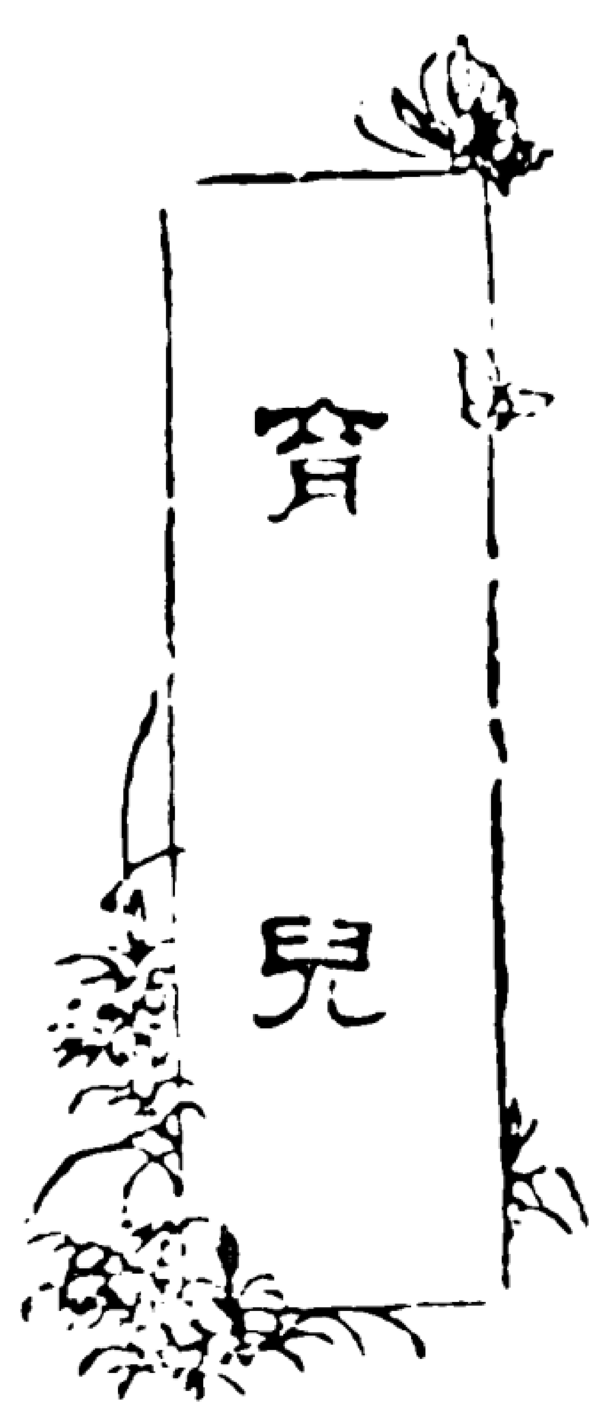
そのものに向つては何等の治療法を行ふことなくとも病氣は自然に治癒するものであります。又其他の場合に於きましても、人體に何等かの疾病が發生しますれば、多くの場合に於ては人體は巧妙なる生體の作用によつて直ちに其疾病に對する防禦設備が出來まして、茲に疾病と生體との戰爭が始まるものであります。而してその何れが勝つかゞ卽ち生死の堺でありますから、若し相方互角の場合でありますれば、其際體外より何等かの方法によつて病勢を挫き人體を保護する手段を講じ、それが甘く成功すれば病氣は必ず治癒すべきものであります。卽ち茲に肺結核に罹つたものがあるとしますれば、其患者に充分なる滋養物を與へ且氣候佳良なる土地に轉地せしめて體力を養ひ、疾病そのものに向つては發熱すれば下熱劑を投じ、又咳嗽あれば袪痰劑を與ふると云ふ樣な各症狀に就ての治療法を行ふのみで、特に結核菌そのものを殺滅すべき方法を講じないでも、肺結核は自然に治癒するものであります。其他疾病は患者に對して甚しき苦痛を與ふるものでありまして例へば胃痙攣の如きものは、患者は堪へ難き疼痛の爲に轉々苦悶して、殆んど見るに忍びないものでありますけれど、此際一筒の痲醉劑を注射すれば直ちに疼痛消散し、患者は安靜となることが出來ます。故に此等の症候的療法は疾病の治療上最も大切なものでありまして、それは決して單に疾病の一症狀を治癒せしむるのみのものでなく、此療法が卽ち其疾病を根本的に治癒せしむるものであります。夫故此療法が上手に出來れば、患者の苦痛を去り、疾病を輕く經過せしめ、且それを迅速に治癒せしむることが出來るのみでなく、將に絕えなんとする玉の緒を繫ぎ止めて九死の中に一生を得るの幸福を享けることが出來ます。其他病氣が全然不治のものでありまして、如何なる名醫の治療を受けても到底治癒の見込のないものでありましても、患者に生前甚しき苦痛を與ふることは、患者自身は申迄もなく、其家族に於きましても實に堪へ難きことでありますけれ

ど、此際適當なる治療法を行ひますれば、假令其人の一命を救ふことは出來ないまでも、よく其人をして何等の苦痛をも感ずることなく、安らかに永の眠りに就かしむることが出來ます。夫故凡ての疾病に對し此症候的療法と云ふことは極めて大切なことであります。

第三は食餌衞生的療法でありまして、是又症候的療法と倂んで治療上極めて大切なものであります。何となれば既に申上げました通り、人は一旦病氣に罹りましても、其體力が強健でありますれば、よく其病苦に打勝つて健康を保持することが出來ますけれど、元來身體虛弱なるものでありますれば、之に堪ふることが出來ずして、不幸短命に終ることがあります。而して其身體を強健ならしむるには、適當なる食物を與へ且凡ての衞生上の規則を遵守せしむると云ふことが最も大切であるからであります。果して然らば、患者には如何なる食物を與へれば最適當であるかと申ますに、それは各の病氣によつて多少相違して居りまして、例へば胃潰瘍の如く食餌の攝取に特別の注意を要するものもありますし、又多くの急性傳染病の如く一定の期間は單に流動食のみを與ふるものもありますから、食餌の適用は各疾病に就てそれ〴〵決定せらるべきものでありまして、之を概括的に述ぶることは出來ませんけれど、多くの慢性の疾病でありまして、長き期間に亙り殊にその榮養を害し易きものでありますれば、一般に食物の種類に重きを置くよりも、寧ろ食物の量に注意し、身體の榮養狀態を維持するに充分なるだけの分量を攝取せしむることが最大切であります。然し多くの患者は兎角食慾の缺乏を來し易きものでありますから、之に向つて一時に多量の食物を強ゆることなく、これを數回に分ち與へ、患者の甚しく厭惡の念を起さしむることなく、喜んで之を攝取せしむる樣にするとが最も大切であります。又牛乳の如きものは食物と同時に之を與へず、普通は茶の代りに少しづつ飲用せしむれば最も便利であります。其他飲料に

就てもよく注意して充分なる量を與ふる必要があります。殊に熱性病でありますれば、適量の飲料を與ふることは最も大切でありまして、此際決して之を節約すべき必要はありません。其他滋養品として種種なるものが製出販賣せられて居りまして、多くの人は其效能を過信し、その何れかを用ふることが治病上必要なる條件であるかの如く考へられ、屢々何れの品が最適當であるかと云ふ樣な相談を受けることがありますけれど、これ等は極めて重症患者で、他の食物が極めて少量にのみか、又は殆んど攝取せられぬと云ふ樣な場合には其必要もありますけれど、其他のものに於きましては、多くは其必要を認めないものであります。然し其理由に就ては爰に之を詳述しますれば餘りに長くなりますから、何れ後に何等かの機會に申上げることゝ致しまして、爰には省略致しました。

衛生的療法としましては身體、衣服、住居を清潔にし、居室並に寢室は空氣の流通佳良にして陰濕ならざる處を選び、常に清透にして塵埃少き空氣中に呼吸し、身體及び精神の過度及び其他凡ての有害作用を避け、毎日適宜の運動を行ふこと等でありまして、此等は既に御承知のことゝ存じますから爰に省略致します。



冬の小兒患者

ドクトル　W、K、生

夏期に最も多い病氣は消化器病であるのに對して冬期に一番多い病氣は呼吸器病である。殊に小兒の侵さるゝことが多い。

呼吸器病と云へば頗る範圍の廣い病氣で、例へば鼻加答兒、卽ち昨今殆んど何れの子供も、戸外に遊

んで居るのは勿論、乳母や子守の背中に負はれて徘徊して居るのを見ても、大抵鼻液を垂してグス〲いはして居る。これも既に呼吸器病の一つである、即ち寒い空氣の爲に小兒の薄弱な鼻粘膜が刺戟されて、紅くなつて、腫れて、分泌物が増して來るのである。單にこれだけであれば、其後屢〻斯様な寒氣に曝さなければ、大抵何事もなく自然に治癒してしまふけれども、毎日斯の狀態が繰返されると、單に寒冷空氣の刺戟のみではない、種々の塵埃や不潔物が刺戟を助けて症狀を劇しくする。

この鼻加答兒が甚だしくなれば、哺乳兒は乳を飲むに難儀になり、機嫌が惡くなつて來る。稍〻成長した兒童は、鼻が塞れば口で呼吸をしながら、砂塵を吹き卷く寒風の中に遊戯する。之だけでも咽喉を惡くするに充分であるが、これに由て鼻加答兒は益〻甚だしくなり、その病的の分泌物は夜間睡眠中に咽頭の方へ流れて、其部分の粘膜に炎症を起し、扁桃腺なども腫れて來る。所謂咽頭加答兒と云ふ狀態になつて、物を嚥下ときに疼痛を覺えるとか、頭痛がするとか、咳嗽が出るとか云ふ訴が始まる。これでも特別の注意を與へられなければ、子供はこの位の事は敢て氣にもとめない、咳嗽をしながらも、友達が誘ひに來れば矢張塵埃濛々たる寒風の中に走つて行くのである。

元來呼吸の裝置は、先づ鼻から空氣を吸入すれば塵埃は鼻毛に依て控留られ、粘液と共に外に排出される。それから寒冷な空氣は濶大なる鼻咽腔の内で適度に溫められ、乾燥せる空氣は此處に於て適當の濕度を保たしめられる。凡て外氣は斯様に出來るだけ清潔に、成るべく溫度も濕度も適當に準備されて、それから喉頭、氣管、氣管枝、肺胞の方へ送られるのである。

斯様な裝置になつて居るのであるから、前述の如く鼻加答兒などがあれば、自然口を開いて呼吸をするので、この裝置の恩惠に預からぬこととなる、即ち塵埃を含むだ、寒冷にして且つ乾燥した空氣が、

そのまゝ喉頭、氣管、肺の方へ素通をすることになる。これを考へれば小兒が冬期に於て容易に氣管枝加答兒に罹ることが理解されるわけである。

それも氣管枝加答兒だけですめば未だ宜しいが、氣管枝と云へば既に肺の內に在るのであるから、毛細氣管枝から肺臟の組織にまでも同症狀を及ぼすことは容易である。即ち毛細氣管枝加答兒、氣管枝肺炎などゝ云ふ病名がつけられるやうになる。

此處まで病氣が進むで來れば、小兒は呼吸困難を起し、熱も高くなり、食慾もなく、衰弱して來るから、勿論牀には就て居るが、甚だ氣むづかしくなる。但し氣むづかしい間は未だ宜しいが、これが愈々衰弱して來ると、今度はむづかる元氣さへも無くなる、顏色が惡くなり、口脣は乾燥して、紫色になり汚穢くなる。これは既に危險の徵候であつて、斯うなつては如何なる名醫も如何なる療法も殆んど致方がない。斯の如くにして死亡する小兒は昨今頗る多い。

之を考へて見ると、病氣は人力の如何とも致し方のない點もあるが、小兒の肺炎などで死亡するのは大部分親の責任にかゝつて來る。先づ最初の鼻感冒を馬鹿にして、寒い凩の起つ日にも子守などに任せて戶外に出す。咽喉が惡くなつて、子供が赤い顏をして咳嗽をするやうになつても、別に注意もせず、手當もしない。若しこの位の時に注意して、戶外に出さず、含嗽をさせるとか、濕布繃法を施すとか簡單な手當をすれば容易に治癒すべきものを、怠慢にして置くから、假令病勢は進まぬまでも治癒し難くなる。そこに持て來て前述の如く正しい呼吸の仕方が妨げられる等の事より、或は質扶的里菌、或は肺炎菌等の病原菌が活躍する機會を見出して來るのである。

特に哺乳兒の如きは、一見甚だ重態の如く見えても、至つて輕症で容易に治癒するものもあるが、之とは反對に外觀上は別に大した事もなさそうであて、實際診察して見ると容易でない、殆んど危險に

迫つて居て、既に生命の安全を保證し難いやうなものも尠なくない。醫師も案外に驚かされるが、母親は今更の如く打驚くものである。若し乳兒の乳の飲み方、又乳嘴を含む口脣の冷熱等に注意し疑はしい時には檢溫器で體溫を計つて見る位の注意をしたならば、恐らく斯樣な死に瀕した小兒を懷いて來て、醫師の診察に依て初めて愕然たる如きことはあるまいと思ふのである。

最後に一言注意すべき事は、呼吸病に罹つて居る小兒の看護上の注意である。昨今小兒の病氣に罹つて居る家庭を見舞ふて見ると、甚だ不都合な事ばかり目につく、第一にその病兒を寢かして在る室である。病室は、殊に冬期にありては成るべく南側の日當りの良い室を希望するのであるが、北側の薄暗い室が病室に充られて居る。東京邊の冬は是非室內を暖ためなければならぬが、元來日本式の住室は到底所謂暖室法を行ふには適してゐない、普通の貸屋の如きは四方八方から外氣が侵入する、室內空氣が暖たまれば益々椽の下から壁を通して外の寒い空氣が闖入して來る。然し病氣になつて居る兒は火鉢に噛りつくことも出來ないから、そこで炬燵の中に寢かして置く。これは又往々甚だしく暖たかで、病兒は直接に炬燵責の難に逢ふて發汗し、口が乾燥して居る、のみならず、不良の炭又は團炭を燃料とする爲に、炬燵の內で發生する有毒の炭酸瓦斯は、恐く病兒の吸入する所となる。斯くの如くにして呼吸病の小兒を助けるなどは到底醫師の思及ばざる所である。これは面倒でも湯「タンポ」にしなければならぬ。

併し湯「タンポ」だけでは不充分である、何うしても多少室を暖める必要がある。そこで普通應用されるのは「ストーブ」か火鉢である。所で所謂「ストーブ」なるものは西洋室にこそ適當であるが、日本室內には頗る不便なものである。併し已むを得ず不便を忍んで應用するとすれば、第一に煙突を完全にし暖爐の構造の確實なもので、少しも瓦斯が室內に漏

れぬやうに、又燃料を入れる際に塵埃を起てぬやうに注意しなければならぬ。又彼の日本室用の瓦斯「ストーブ」と稱するものも、小さな室内で來客の時に暫時焚くのには差支も無いが、終日終夜病室を暖ためるには經濟上からも衞生上からも不適當である。

茲に於て矢張最も普通に應用されるのは從來の火鉢であるが、それは所謂手あぶり用の物で、暖室などと云ふ目的には適せぬが、無いよりは室も暖かになる。けれども室が暖かになる程、これで黑い炭を起されては健康な者でも確かに頭痛がして來る。況んや肺炎などを起しかけて起る小兒に對して非常に有害である。然るに醫師が病室の火鉢に金盥を掛けて湯氣を立てゝ置くやうにと敎へたからと云ふので、甚だしいのは烟るやうな不良の炭を盛に焚いて金盥の湯を沸して、それで至れり盡せりとして安心して居る人がある。成る程冬の空氣は乾燥して居るので呼吸器の粘膜の爲には多少濕氣を含むだ方が良い、併し室内に蒸氣を起てる爲に、不良の燃料を盛に焚いて有毒瓦斯を發生せしめる如きは角を矯めて牛を殺すの類である。實際この方法で以て病兒を窒息の危險に陷入て居るものが尠なくないやうである。故に萬已を得ぬ場合には、せめては室外で眞紅に起し切つた炭でなければ病室の火鉢には入れぬやうにしなければならぬ。呼吸器病、特に氣管枝加答兒、肺炎などに罹つて居る小兒の病室では、その室内の空氣の衞生狀態が最も大切な事で、平素は別に害にもならぬ程の事でも、容易に危險を來すものである。故に呼吸器病の小兒の病室は淸潔にして塵埃を起てぬやうに、又有害の瓦斯の溜まらぬやうに、熱からず寒からず、餘り空氣の乾燥せぬやうに注意することが必要である。それ故に室内の掃除は決して帚や「ハタキ」を使つてはならぬ、必ず悉く濕雜布で拭除るやうにしなければならぬ。溫度も華氏の六十度乃至六十五度位を標準にすべきである。

尙ほ注意すべきは、病兒の寢衣である。稍成長した小兒は餘り不都合な取扱に對しては不平を訴へる

から宜しいが、幼兒に至つては無智の乳母や母親の爲めに絞め殺され、蒸し殺されるまで苦痛を表現することが出來ない。既に衰弱して、呼吸困難を起して居るのに、寒くしてはならぬと云ふだけの猿智慧から周圍の不潔や室溫の調節などは少しも顧慮せず徒らに寢衣や衣服を重ね、それも胸腹部を甚だしく緊つけて著せる、これだけでも呼吸困難の病兒は窒息するに足るが、更に毛布に纏き、厚い「ドテラ」とか蒲團とかで重しをかける。全く絞め殺し、蒸し殺すやうなものである。これは是非輕く、成るべく胸や腹を緊迫せぬやうに努めることが必要である。そこで矢張出來るだけ適當な煖室法が必要である。

　これを要するに、小兒が鼻感冒や咽喉加答兒を起した時には、嚴重に攝生法を守らしめて早く治癒せしめる事。氣管枝加答兒、肺炎等にて就褥した時には、成るべく南向きの暖い室を病室に充て、成るべく瓦斯を發生せしめずに華氏の六十度位の室溫を保たしめる事。室内の掃除は雜巾で塵を拭除る事。湯氣を立つるは良き事なるも、これが爲めに終日室内で黑き炭を焚くべからざる事。寢衣等にて小兒の胸部を緊め、厚き「ドテラ」、蒲團にて重味を掛けぬやうに氣をつける事。其他種々細かい注意も述べ度い事は澤山あるが、先づ日常見受ける呼吸器病の小兒の取扱ひ方の不都合は凡そ以上の如きもので、須らく注意し改善を要すべき事共であると思ふ。

家庭衞生

餅の食べ方

莊司秋次郎

餅は不消化で胃腸を害すると云ふ惡評を被むるやうでありますが、餅その物は決して不消化な物では

ありません。不消化と云ふのは、その食べ方が惡いからに相異ありません。

第一に餅は普通の御飯に比すれば非常に緻密なものですから、平素御飯を三杯食べる人なら、一杯で澤山であります。それを御飯と同じ心持で三杯食べるなら、その實質の量が三倍にもなるからお腹の工合の惡いのは不思議はありません。況んやそれ以上に強ひられて食べたりすれば消化器を害するは勿論の事であります。

次に餅は質が緻密でありますから、餘程よく咀嚼して嚥下まなければ、胃腸に行つて消化液が内部まで作用しにくい、即ち消化液が塊の内部まで浸込みませんから、唯外側から徐々に消化して行くより外に仕方がありません。それで消化に暇がとれます。消化が惡いわけではありません。矢張食べ方が惡いのであります。その證據には堅餅を燒いてよく咀嚼して食べる時には、決してお腹を惡くしたなど〻云ふ事を聞きません。これはつまり澤山食べられぬのと、充分咀嚼しなければ嚥込めぬ爲めであります。

要するにお雜煮も堅餅を食べる時の要領で食べますなら至て消化の良いものに相違ありません。

抄録

壁と雨戸

工學博士佐野利器述（東京小間物化粧品商報第八七三號）

日本造りでは柱と桁、長押との接合せは木丈で組み大枘を明けて巧みにやる事を自慢する習慣が却々拔けず僅かな變化で遙かに堅牢にする事が出來る樣になつても何時迄も室の中の同じ見得だけを保持しやうと努めてゐるのは愚な事である。此の架構の問題は西洋風の家(例へば學校、病院等)であると筋違を用ふる餘地が充分あるから其處置は極めて簡單で

ある、而して此の構造は唯り耐風に有效なるのみでなく地震に對する抵抗力も同樣に備へてゐるのである。

又柱があつて室の中に壁の無い家、或は壁が極く尠い家、殊に其が二階家でゞもある場合には最も注意を要する、即ち壁は一つの抵抗體だから間取をする時に何方から風が吹いて來ても風の分力の方向と平行する樣な壁が室の中にある事を望むのである。

雨戸の注意は溝を深くして容易く外れぬ樣にする事である、是は盜賊の豫防上有效なばかりでなく風害豫防に必要な事である雨戸に每平方尺三十封度の風壓がかゝつてゐる時に一枚の雨戸が外れると室全體が四方八方に外側に向つて三十封度の壓力を出すものだから側壁を倒したり家根を持上げたりする虞れがある、だから雨戸は相互に栓を差すか上下に猿を支ふなり釘を差すなりする事が必要である、瓦――殊に軒前及び下り棟の瓦は被害を受け易い場所だから釘又は針金で止めるとよい、廂、玄關、屋根等總て主材が相互に離れぬ樣注意する事が必要であつて、それには木材を傷けないで目的を達する樣に金物を使ふがよい、金物は大きなものより小さいものを數多く使用した方が有效である、塀は土臺と地行を連結する事、丈夫な控へ柱を立てる事抔が唯一の注意點である。

雜報



○婦人年始會

去る十日午後一時より麴町富士見町の富士見軒に於て婦人年始會を開けり、私立大日本婦人衞生會は當年番の事とて濱尾、鳩山、岡田、三浦、近藤等の同會役員幹事にて階上の二間に來會者を迎へ、老若の貴夫人互に挨拶を交はし、四方山の談話に花を咲かしたるが、午後三時食堂を開き、年長者として三輪

田刀自の挨拶あり、屠蘇の杯を擧て歡談いとゞ春めかしく、四時過散會したり、因に當日の主なる來會者の芳名を記すれば左の如し。

大正七年婦人年始會出席者（いろは順）

若佐千賀子　若佐富士子　伊東けい子
濱尾作子　廣山春子　服部桂子
濱田捨子　仁田松子　外山房子
大澤さく子　大澤豐子　岡田徳子
岡山敏子　大竹良子　小川孝子
小川婉子　若宮米子　加藤靜子
河津こし子　加藤常子　嘉悅孝子
片山かゑ子　吉原米子　吉原豐子
吉岡彌生子　吉田貞子　田村きよ子
棚橋絢子　竹中しけ子　武田貢子
岡田梓子　中濱芳子　隈川京子
栗澤龍子　黑田琴子　山脇房子
松平須磨子　松井正子　古市幸子
近藤惠子　小池照子　五明しづ子
天野多喜子　跡見玉枝子　相磯正子
佐藤みさを子　佐々木芳子　佐方鎭子
齋藤勝子　齋藤郁子　櫻田節彌子
佐藤ふみ子　岸種子　岸照子
三輪田眞佐子　三宅ふじ子　三浦敬子
下田歌子　志賀八重子　下妻つま子
守屋千代子　守屋玉枝子　關邦子
瀨川すゞ子　杉山岩代子

○鷗友會の慈善市

市立第一高等女學校出身者により組織せらるゝ鷗友會及び同校在學生の主催に係る細民救濟の慈善市は舊臘二十九日淺草區玉姬小學校雨中體操場に開催されたるが商品は高女在學生の父兄の寄附に係るものを合はせ都合千八百三十二點、外に炭團、炭等もありて價格は何れも驚くべき安價なりしと。

○燒芋騰貴

甘藷も燃料も高くなれる爲め、燒芋は貧書生、女中さん等の點心の料にあらずして、中流以上の珍味とならんずる形勢なりと、京橋邊の、とある燒芋屋の主人は左の如く零せりとかや。

「例年なら川越の上赤で十五錢位だのに、初春來二十五錢に騰つて一駄三十貫、運賃共四圓六七十錢につきます、燃料の空俵は圓に四五十貫したものが、

一躍二十貫に騰つて一俵五錢に當り、それに製紙會社が製紙の原料に使ふので奪ひ合ふて何萬と纏めて買占める爲、煙草專賣局などから拂下げた廢物の俵繩は圓に百貫もしたものが今は唯の十六七貫に暴騰し、それでも容易に得られません、芋はよく賣れもするが、燃料が高くて利益はない、場末の小さな同業者はばた〳〵廢業して了ひます』と京橋過の燒芋屋は零してゐた。

○處女會

東京在住の有志女流教育家其他の贊同の下に十一月十六日處女會の成立を見たり、同會は地方處女會と連絡を保ち、家業に從事せる處女が、父母に事ふる傍ら智能を磨き、德性を養ひ、體育を勵み、育兒、裁縫、看護、料理、作法等の練習をなし、他日よき妻となり、よき母となるの準備的自治的團體として極力その效果を收むる爲め努力する筈なりと云ふ。

○蜜柑にて窒息

新聞に左の如き記事あり、小兒のみを留守居せしむるは種々の危險の本なり。

十五日午前八時、深川區木場町五、柳川岩吉の不在中同人の長男一夫(八ツ)が蜜柑を喰ひながら、弟の二夫(四ツ)にその一袋を與へしに、忽ち咽喉に閊へて苦しみ出し、折柄岩吉が歸宅して醫師を招いたが手當の效なく遂に其儘絶命したり。

○婦人修養倶樂部

去る十二日午後一時より女子職業學校講堂に於て一月例會を開き中野禮四郎氏の歷史談に次ぎ三曲合奏等の餘興ありたる由。

○日本婦人の頭顱

理科大學人類學教室の松村瞭氏は、去る十二日の東京人類學會にて日本婦人の頭形とその地方的差異に就て大要左の如く述べられたりと。

十八歲以上の女子三千人と、二十一歲の男子六千人とに就き研究の結果日本婦人の頭の長徑は百六十密迷から二百四密迷までゝ、其平均は百七十九密迷三十一と見て差閊へない、男の頭に較べると女の方は

五分四厘小さい事になる、幅徑は百三十四粍迷から百六十六粍迷までゝ、其の平均百四十六粍迷七十六男のそれより三分八厘小さい、それたら身長と頭との比例上、男は相應してゐるが女は不相應かといふのに然うではない、卽ち身長百として比例を取ると女の頭の長徑十一粍迷九十七幅徑九粍迷七十九に對し男のそれは長徑十一粍迷六十七幅徑九粍迷四十一を示し同一の結果を得るからである、又指示數は男女共に六十八粍迷から九十五粍迷で八十粍迷の者が一番多いが、平均寸法は男の八十粍迷に比し女は一粍迷多い、如上の計算から亞細亞大陸各人種と比較すると、其の指示數は北方は男、朝鮮以南は女の方が高い、要するに日本人は男女共に短頭であるが、男よりも女の方が幅が廣く丸味がある、併し筑前と薩摩との女の頭のみによつて比較を取ると前者は中頭、後者は短頭となり、大隅と筑後との女を比すると前者は短頭で後者は中頭となる云々。

○救世軍病院の齒科開設

一般の慈善病院には從來齒科治療の設備を爲せるもの無き爲め同病に惱む者比較的多きに拘はらずこれが治療を受くる便宜なかりしが今回下谷御徒士町なる救世軍病院にては其の設備の必要を感じ本月七日より同病院內に新たに齒科を開始することゝなれり治療は幾らかづゝの實費を以て需めに應ずることゝし時間は特に勞働者の便宜の爲め午後五時より八時までなりと。

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子　同 長谷川仲子
同 岡田德子　同 高木鐐子
同 山木多喜子　同 三浦敬子
同 松平芳子
評議員 入澤常子　同 羽田三緒子
同 濱田捨子　同 服部繁子
同 原みつ子　同 仁禮壽賀子
同 西外子　同 土肥多越子
同 緒方悦子　同 岡山とし子
同 小川孝子　同 男爵母堂 加藤鈴子
同 片山德子　同 吉岡彌生子
同 丹波貞子　同 高橋孝子
同 田村きよ子　同 武田貞子
同 鶴原誠子　同 男爵夫人 南部陳子
同 中濱芳子　同 山口貞子
同 子爵母堂 松井正子　同 古市幸子
同 小松いさ子　同 近藤繁子
同 天野多喜子　同 岸ノ澄子
同 菊池縣子　同 三宅藤子
同 宮本樂子　同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價	廣告料	規定
一册 定價金貳拾錢 郵税壹錢 三册（三ヶ月分） 前金郵税共 金四拾五錢 十二册（一ヶ年分） 前金郵税共 金壹圓八拾錢	一頁六十二行 一行二十三字 壹頁金五圓 半頁金貳圓五拾錢 ○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓 ○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢	○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正七年一月十七日印刷
大正七年一月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地　非司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　櫻井新三郎
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市本郷區駒込林町二番地　私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本鄉區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鈴屋町　頁明堂
同市本鄉區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本鄉區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

婦人衛生雜誌第三百三十八號（大正七年一月二十日發行）（明治四十三年十二月二日第三種郵便物認可 毎月一回二十日發行）